

B-2 孔(2006) (4/8)

孔口標高		T. P. +15.00 m		掘進長		231.00 m		調査期間		2006年 9月 15日 ~ 2006年 10月 26日		試験機械		YBM-3JR		
角度		—		方向		—		孔内水位		T. P. +3.21 m		孔内試験項目		P S 検層(ダウンホール・サスペンション), ボアホールTV, 孔曲		
標尺	深 度	標 高	層 厚	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	ニ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	孔 径	孔 内 試 験 項 目 深 度 (m)	記 事
(m)	(m)	T. P. (m)	(m)					上層岩柱状 砂片柱状 状状状状状						φ75mm φ75mm		
90																
1	96.91	-76.97	9.97		凝灰岩	緑灰					100	78	100			<p>上部は比較的細粒、下部は比較的粗粒の火山礫を含む上方細粒化を認められる火山凝灰岩である。下位境界は漸移し不明瞭。全体に傾斜40°前後の葉理が認められる。割れ目は少なく新鮮。</p> <p>93.97~96.50m付近まではφ2~10mm(最大32mm)の流紋岩質火山礫(レンズ状で基質との境界が不明瞭)を主体とし、黒色頁岩、凝灰質頁岩の帯内~亜角礫を含む。基質は中~粗粒凝灰岩からなる。</p> <p>91.11mに45°, 91.54mに60°, 91.75mに65°の割れ目があり、方解石の細脈で充填されている。</p> <p>95.50m, 45°の割れ目に幅3mmで方解石脈が付着している。</p> <p>98.50~100.03m付近まではφ4~15mm(最大40mm)の火山礫や暗灰色の凝灰質頁岩と、泥質分を含んだ粗粒凝灰岩を基質とする火山凝灰岩で下部に鋭い粗粒になる酸化を示す。扁平な火山礫や暗灰色の泥質部の集積が示す面構造は傾斜約30°。</p> <p>98.60m, 60°の割れ目を方解石細脈が充填する。</p> <p>97.43m(60°)99.11m(30°)に亀裂面が不規則な割れ目分布。103.27mの高角度割れ目には褐色酸化認められる。</p>
2											100	32	91			
3											100	94	94			
4											100	58	100			
5											100	100	100			
6											100	50	100			
7											100	61	100			
8					雑緑白灰						100	57	100			
9											100	85	96			
100	100.83	-85.63	9.46		火山凝灰岩						100	89	100			
1					雑緑暗灰						100	68	97			<p>上方細粒化する板状の凝灰質頁岩。平均粒径32mm以上の濃緑、緑灰、灰白の凝灰岩、流紋岩、暗灰色の凝灰質頁岩の亜角礫と、粗粒凝灰岩の基質からなる凝灰岩である。下位境界は不規則だが明瞭で約40°102.20m(30°), 103.27m(65°), 105.81m, (30°), 不規則な亀裂面の亀裂認められる。106.80m以深では凝灰質頁岩の基質にφ2~10mmの火山礫を取り込んだ火山凝灰岩となる。</p>
2					雑灰黒灰						100	47	100			
3											100	80	100			
4											100	71	100			
5					雑緑暗灰						100	84	96			
6											100	50	93			
7	106.34	-91.54	5.91		凝灰角礫岩	雑緑緑灰					100	87	87			
8											100	20	20			
9											100	20	64			
110											100	21	93			
1	110.98	-95.68	3.74		黒色頁岩	黒灰					100	45	89			
2	111.22	-95.22	3.64		凝灰質頁岩	暗灰					100	19	19			
3	111.81	-96.63	3.41		黒色頁岩	黒灰					100	19	19			
4	112.35	-97.03	3.49		凝灰質頁岩	暗灰					100	19	19			
5	112.37	-97.37	3.34		凝灰岩						100	20	64			
6	112.82	-97.82	3.45		火山凝灰岩	雑緑灰					100	42	66			
7	113.24	-98.24	3.42		凝灰岩	暗緑灰					100	45	88			
8	113.93	-98.63	3.39		凝灰岩	暗緑灰					100	45	88			
9					凝灰質頁岩	雑灰黒灰					100	28	28			
10	114.29	-99.59	1.26								100	28	28			
11											100	29	44			
12											100	48	48			
13											100	48	48			
14											100	17	39			
15											100	17	39			
16											100	20	68			
17											100	20	68			
18											100	20	68			
19											100	20	68			
20											100	21	75			

B-2 孔(2006) (5/8)

孔口標高		T.P. +15.00 m		掘進長		231.00 m		調査期間		2006年 9月 15日 ~ 2006年 10月 26日		試験機械		YBM-3JR		
角度	方向	孔内水位		T.P. +3.21 m		孔内試験項目		P.S.検層(ダウンホール・サスペンション), ポアホールTV, 孔曲		記		事				
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径	孔内試験項目	深度 (m)
120																
1							C _H	土短岩短柱状 砂片片柱状 状状状状状			100	60	100		P.S.検層(サスペンション)	120.20~120.81m(葉理30°)が発達し、凝灰質頁岩の薄層を挟む。 120.81~121.90m, φ5~15mmの硫化鉱物が脈状に存在する。 121.90~122.18m, レンズ状の凝灰質頁岩を伴う。 122.18~122.25m, 傾斜30°の葉理面沿いの亀裂と傾斜60°の高角度亀裂が密集して短柱状。一部岩片状となる。
2		122.62	107.62	2.62	黒色頁岩	黒灰	C _H			1	100	30	94		P.S.検層(ダウンホール)	
3					凝灰質頁岩	灰	C _M				100	18	31			
4		124.12	109.12	1.60	黒色頁岩	黒灰	C _M				85	6	0			
5		124.74	109.74	0.62	凝灰質頁岩	淡赤白	C _M				90	11	11			
6		125.97	115.97	1.23	黒色頁岩	淡赤白	C _M				100	61	61			
7		126.29	111.29	0.32	凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	34	51			
8					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	39	85			
9					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	84	100			
130		132.99	115.99	4.62	凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	17	50			
1					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	24	50			
2					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	63	91			
3		133.50	118.50	2.60	凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	32	98			
4		134.52	119.52	1.02	凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	35	30			
5					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	22	38			
6					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	40	89			
7					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	51	82			
8					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	38	91			
9					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _M				100	52	89			
140					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	55	75			
1					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	42	82			
2					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	36	79			
3					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	43	100			
4					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	47	70			
5					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	56	68			
6					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	60	97			
7					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	43	87			
8					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	33	77			
9					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	22	59			
150					凝灰質頁岩	淡赤灰	C _H				100	18	50			

B-2 孔(2006) (6/8)

孔口標高		T.P. +15.00 m		掘進長		231.00 m		調査期間		2006年 9月 15日 ~ 2006年 10月 26日		試験機械		YBM-3JR			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.21 m		孔内試験項目 P S 検層(ダウンホール・サスペンション), ボアホールTV, 孔内					
標尺	深度	標高	層厚	柱状	地質	色調	岩級	コア形状	割れ目	風化	コア	最大	R	孔径	孔内試験	記	事
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)	図	種別		区分	十割全割柱状 砂片片柱状 状状状状状状	目状	率度	採取率 (%)	コア長 (cm)	Q (%)	ビット コアチップ	項目 深度(m)		
150	—	—	—	L			C _M	150.00	1		100	17	30	ボアホールTV	P S 検層(ダウンホール)		150.07m(30°)150.16m(45°)の割れ目有り、鏡肌を呈す。150.90m(25°)150.60m(60°)150.70m(85°)150.93m(50°)割れ目いずれも鏡肌を呈す。151.42m(40°)151.52m(50°)割れ目、鏡肌を呈す。151.91m(45°)割れ目、鏡肌。152.33(30°)152.56m(45°)152.40m(20°)割れ目。152.60m(45°)割れ目、鏡肌見られる。152.90m(50°)方解石脈状在。153.65m(55°)割れ目鏡肌を呈す。方解石の結晶と酸化鉄物の結晶が介在する。158.00~156.25m、70°の角度で方解石の脈が層厚1mmで挟在。158.40~156.55mに60°の角度で方解石の脈が酸化鉄物の結晶を伴って挟在。156.67m付近に80°の角度で方解石の脈(1~2mm)が2本挟在。156.80m付近、高角度色裂沿いに方解石と酸化鉄物の結晶が挟在。
1	—	—	—	L			C _M	150.05	1		100	34	92				
2	—	—	—	L			C _M	150.09	1		100	24	78				
3	—	—	—	L			C _M	150.14	1		100	52	95				
4	—	—	—	L			C _M	150.18	1		100	100	100				
5	—	—	—	L			C _M	150.23	1		100	60	100				
6	—	—	—	L			C _M	150.27	1		100	68	98				
7	—	—	—	L		暗緑	C _M	150.31	1		100	29	100				
8	158.05	-149.05	9.05	L	ドレライ ト	暗緑灰	C _M	157.51	2		100	28	56				熱水変質により脱色した凝灰質頁岩。傾斜(45°)発達。下位境界は不明瞭で漸移。割れ目に酸化鉄物を挟在。
9	158.09	-149.09	9.09	L	凝灰質頁岩	淡緑灰	C _M	158.03	2		100	28	56				凝灰岩の細粒φ4~32mmを主体とする火山凝灰岩。下位境界は不明瞭。黒色頁岩粒φ50mmをとりこんでいる。部分的に方解石の細脈を挟在する。
10	159.09	-146.09	1.09	L	火山凝灰 岩	灰白黒	C _H	158.09	2		100	52	100				粗粒の輝石、角閃石、斜長石を基晶と、暗緑色で細粒の基質からなる。塊状を呈す。含有鉄物の量比に従って暗緑色から灰緑色と色調が変化する。所々に白色脈(最大幅20mm)を挟在。割れ目の特徴として暗緑色の割れ目は激動的で表面に鏡肌を呈すものがある。一方、灰緑色の部分では割れ目に白色脈が見られることが多く、鏡肌は示さない傾向にある。159.69~160.80m、基質はやや細粒。白色鉄物(φ5mm程度)と有色鉄物の結晶が散在する。161.15m、162.14m、45°で暗黒色の蛇紋石細脈(密着)。162.48m、30°の白色脈(幅0.5mm)。163.00m、80°の割れ目。表面は白色鉄物や蛇紋石付着。163.20m、70°の白色脈に酸化鉄物斑状に伴う。164.80m、70°の暗黒色の蛇紋石脈(幅1~3mm)。165.21m、50°の割れ目。表面に幅0.5mmで蛇紋石付着。167.10m、80°の白色脈に酸化鉄物斑状に伴う。167.21m、40°の白色脈。167.32~167.72m、90°の白色脈が酸化鉄物を伴い一部開口。168.00~168.30m、90°の白色脈、幅1.5mm。168.45m、白色脈に酸化鉄物の濃集。70°で細脈下方から伸びる。169.47~169.80m、方解石の細脈。170.24m、50°の割れ目に白色鉄物脈伴う。171.05m、白色鉄物の脈に沿って一部開口。172.95~173.68m、173.33~173.55m、白色脈(70~80°)に沿った割目。174.30m、70°の割れ目。表面に酸化鉄物付着する。176.37m、50°と40°の割れ目が交差し、50°の割れ目には白色鉄物の結晶が付着。下側に白色粘土が付着。40°の割れ目は下側に粘土付着。177.55m、60°と30°の割れ目が交差。白色脈を介在。岩質やや脆弱。177.79~177.86m、20°前後の白色脈に沿って割れ目随所、表面やや脆弱化。177.86~177.91m、白色脈が水平に網状に入る。178.17m、65°の割れ目。下側に灰白色塊状物付着。178.36~178.80m、70°の角度で幅4~5cmが管状に細粒を呈す。179.50m、179.60mの割れ目面上下とも灰白色色る。
11	—	—	—	L			C _H	159.69	2		100	52	100				
12	—	—	—	L			C _H	159.74	2		100	84	100				
13	—	—	—	L			C _H	159.79	2		100	39	68				
14	—	—	—	L			C _H	159.84	2		100	96	96				
15	—	—	—	L			C _H	159.89	2		100	72	100				
16	—	—	—	L			C _H	159.94	2		100	53	92	φ65m/m ゲイガブル			
17	—	—	—	L			C _H	160.00	2		100	59	100				
18	—	—	—	L			C _H	160.05	2		100	60	100				
19	—	—	—	L			C _H	160.10	2		100	37	88				
20	—	—	—	L			C _H	160.15	2		100	59	100				
21	—	—	—	L			C _H	160.20	2		100	41	100				
22	—	—	—	L			C _H	160.25	2		100	35	100				
23	—	—	—	L			C _H	160.30	2		100	62	93				
24	—	—	—	L			C _H	160.35	2		100	55	95				
25	—	—	—	L			C _H	160.40	2		100	47	100				
26	—	—	—	L			C _H	160.45	2		100	59	91				
27	—	—	—	L			C _H	160.50	2		100	100	100				
28	—	—	—	L			C _H	160.55	2		100	37	95				
29	—	—	—	L			C _H	160.60	2		100	55	83				
30	—	—	—	L			C _H	160.65	2		100	83	94				
31	—	—	—	L			C _H	160.70	2		100	45	99				

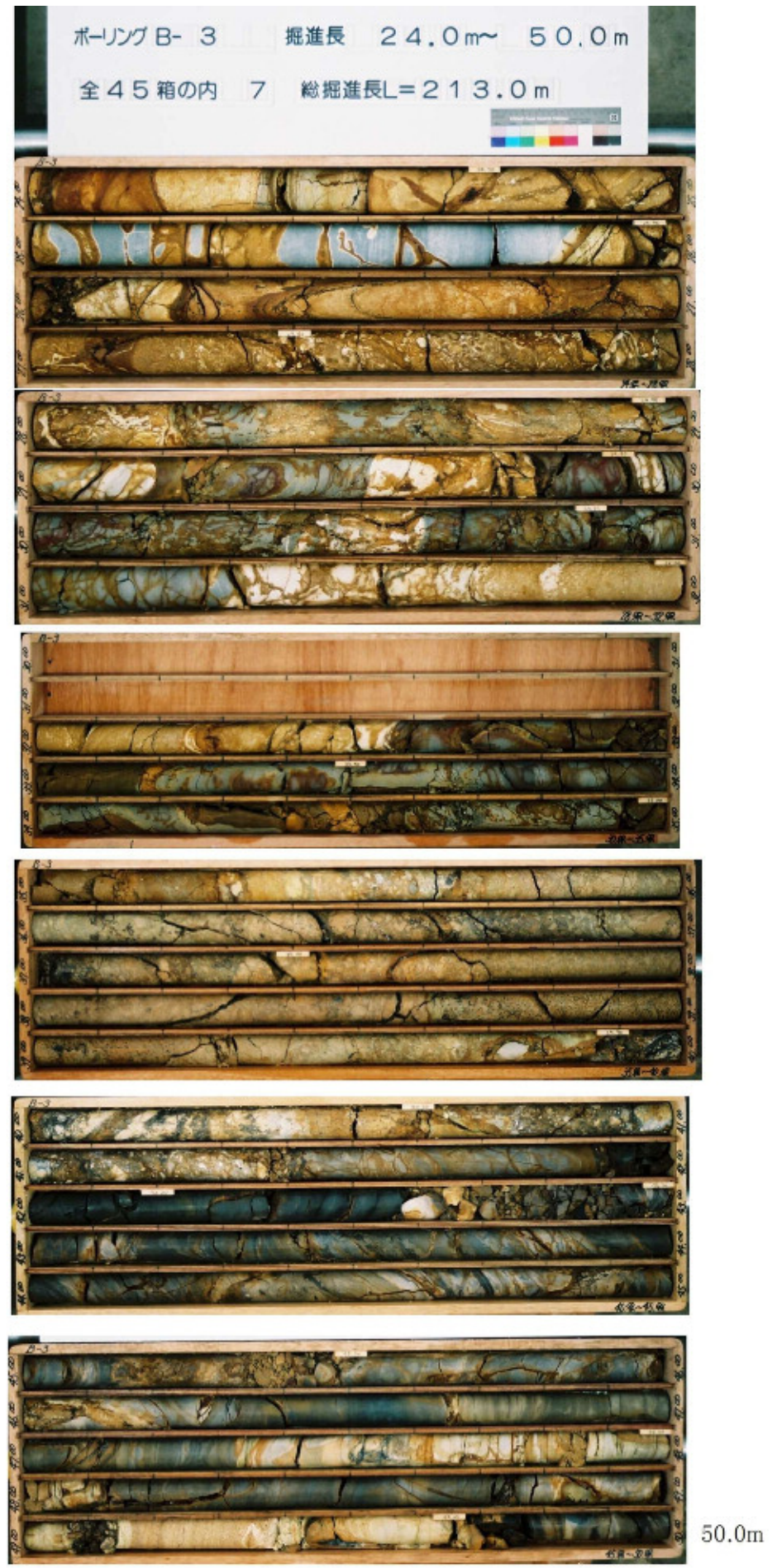
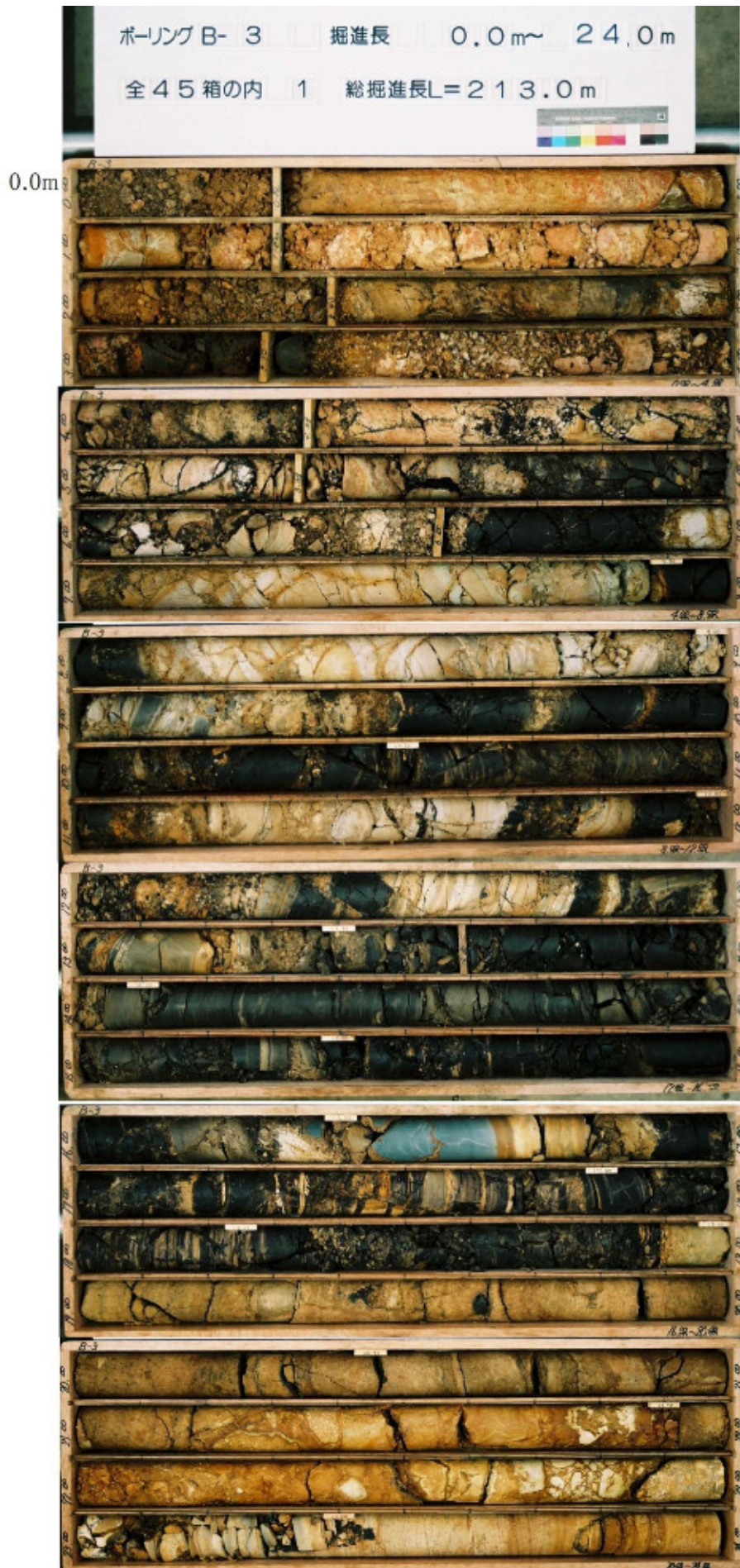
B-2 孔(2006) (7/8)

孔口標高		T.P. +15.00 m		掘進長		231.00 m		調査期間		2006年 9月 15日 ~ 2006年 10月 26日		試験機械		YBM-3JR			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +3.21 m		孔内試験項目		P S検層(ダウンホール・サスペンション), ボアホールTV, 孔曲			
標尺	深度	標高	層厚	柱状	地質	色	岩	コア形状	割	風	コア	最大	R	孔径	孔内試験	記	事
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)	図	種別	調	級	上層岩粒状 砂片粒状 状状状状状	れ	化	採取	コア	Q	φ	項目		
									目	程	率	長	D	φ	深度		
									態	度	(%)	(cm)	(%)	φ	(m)		
180																	
1											100	81	100				
2											100	85	85				
3											100	53	99				
4											100	70	100				
5											100	55	100				
6											100	43	91				
7											100	45	92				
8											100	100	100				
9											100	47	95				
190											100	100	100				
1											100	62	100				
2											100	68	100				
3											100	57	100				
4											100	34	100				
5							CH		α	1	100	45	99				
6											100	100	100				
7											100	65	100				
8											100	68	100				
9											100	85	98				
200											100	52	100				
1											100	33	91				
2											100	100	100				
3											100	67	100				
4											100	35	99				
5											100	55	100				
6											100	75	87				
7											100	47	100				
8											100	75	91				
9											100	51	100				
210					ドレライ ト	灰緑					100	50	99				

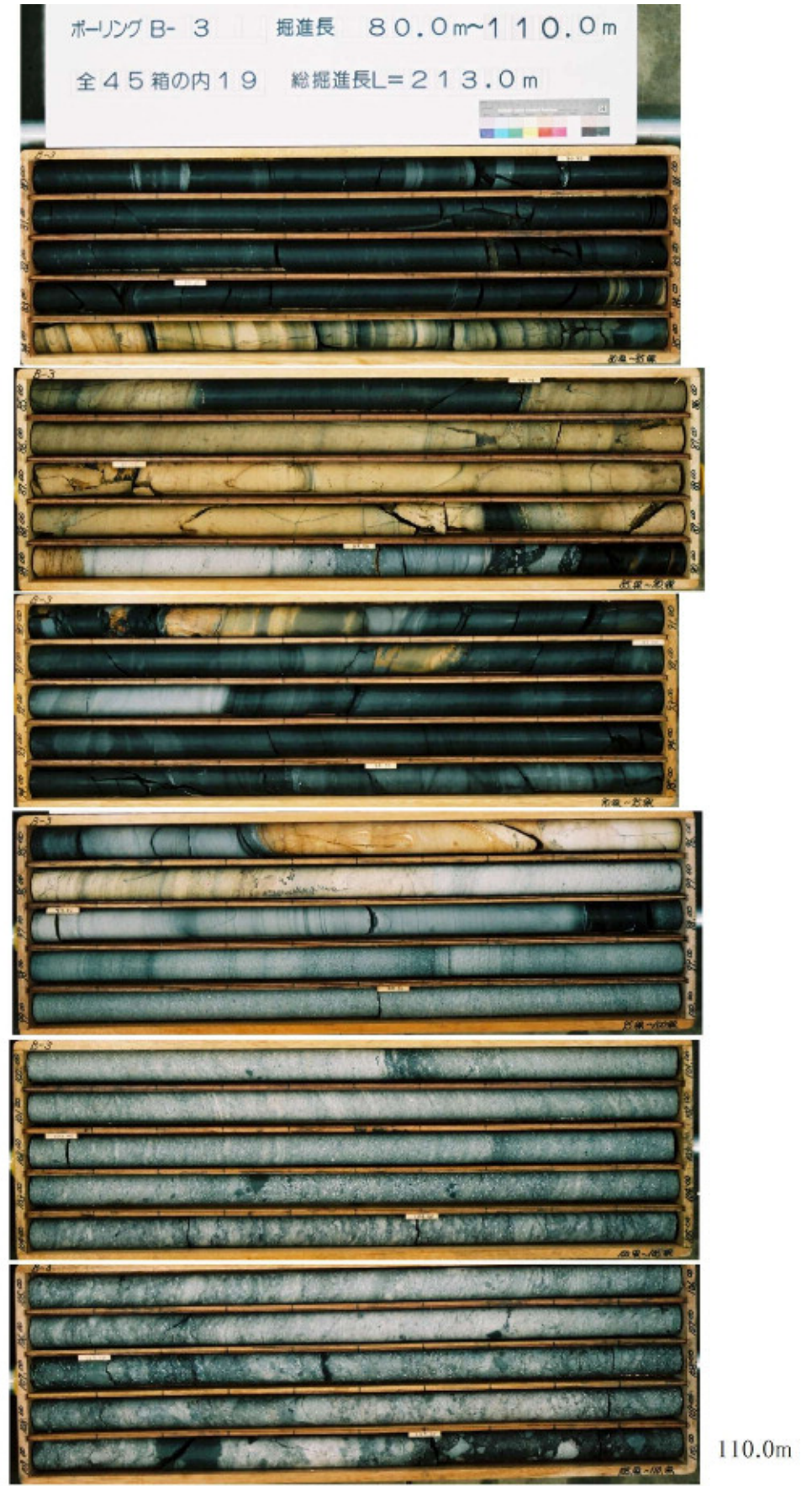
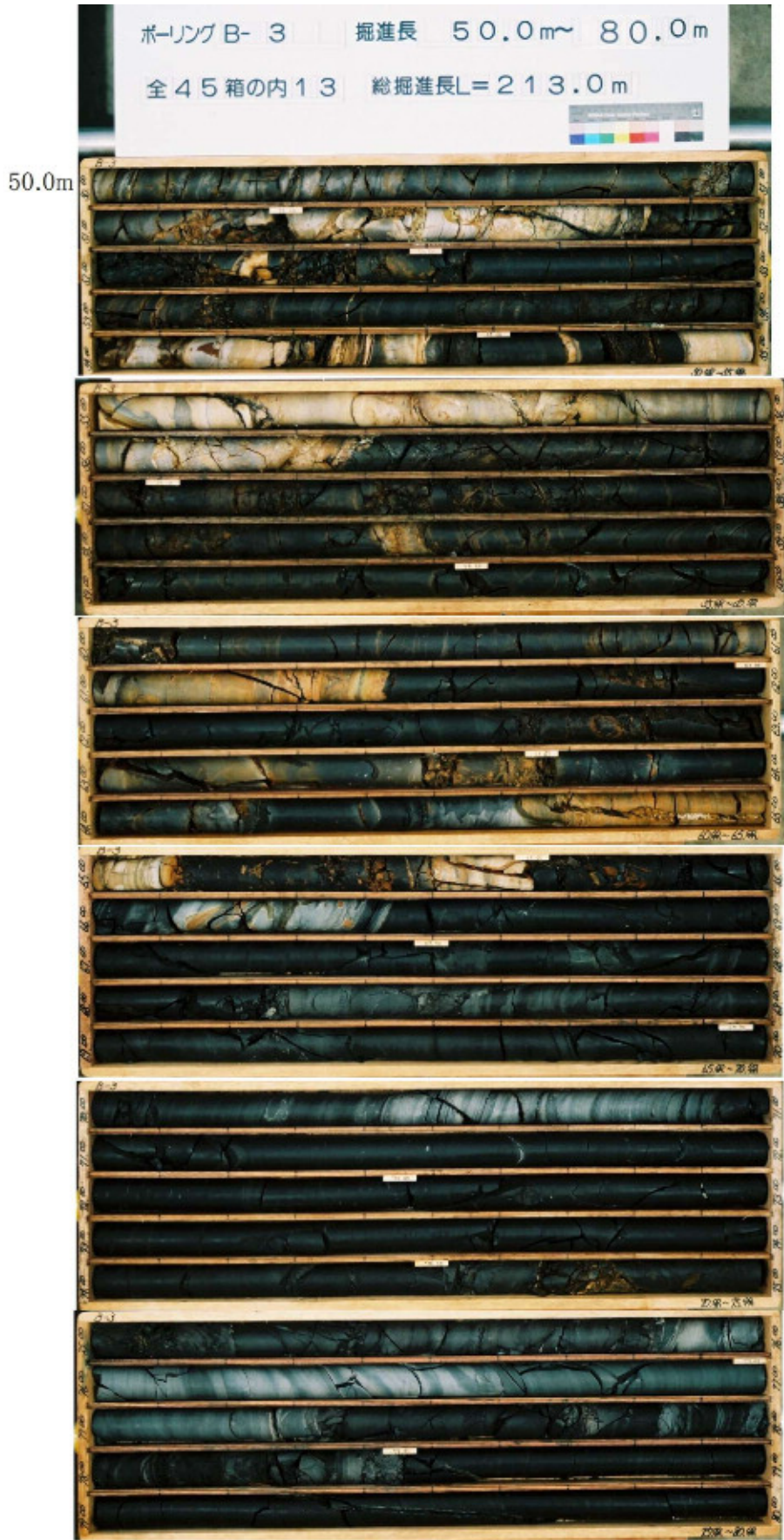
B-2 孔(2006) (8/8)

孔口標高		T. P. +15.00 m		掘進長		231.00 m		調査期間		2006年 9月 15日 ~ 2006年 10月 26日		試験機械		YBM-3JR			
角度		---		方向		---		孔内水位		T. P. +3.21 m		孔内試験項目		PS検層(ダウンホール・サスペンション), ボアホールTV, 孔曲			
標尺	深度	標高	層厚	柱状	地質	色調	岩級	コア形状	割れ目	風化	コア採取率	最大コア長	RQD	孔径	孔内試験項目	記	事
(m)	(m)	T. P. (m)	(m)	図	種別		区分	上層岩柱状 砂片柱状 表状状状状状	目状	程度	(%)	(cm)	(%)	φ	項目 深度(m)		
210																	
1											100	100	100				
2											100	93	93				
3											100	70	100				
4											100	100	100				
5											100	100	100				
6											100	33	100				
7											100	70	95				
8											100	83	100				
9											100	30	99				
220						灰緑	CH				100	93	93				
1									α	1	100	35	98	φ 66mm グアググ			
2											100	35	100				
3											100	67	98				
4											100	67	98				
5											100	34	100				
6											100	47	92				
7											100	45	82				
8											100	33	90				
9											100	48	100				
230											100	64	93				
1	231.30	215.00	25.00		ドレイト	暗緑	231.00				100	23	79		231.00		
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
240																	

B-3 孔(2006) (1/4)



B-3 孔(2006) (2/4)



B-3 孔(2006) (3/4)

110.0m



170.0m

B-3 孔(2006) (4/4)



B-3 孔(2006) (1/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試験機械		OE-8		
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		P S検層(ダウンホール, サスペンション), ボアホールTV, 孔底		記		事		
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 区 別	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 削 目 次 状 態	風 化 程 度	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度 (m)	
0	0.30	112.03	9.30		凝灰質頁岩	暗褐色		土短管短柱状 砂片片柱状 状状状状状状						φ 85mm/ 7'4" x 7'4"	ボアホールTV	表土、草の根を掘入する。著しく風化して原岩組織は不明瞭である。赤褐色～淡褐色の比較的高角の組織から凝灰岩と推定。
1	2.15	110.18	1.85		凝灰質頁岩	斑赤褐色	D			5	98					2.15~2.40m, 凝灰コア。葉理面の傾斜30°。下位境界は明瞭。直線的に傾斜約20°。
2	3.19	109.23	3.56		凝灰質頁岩	斑暗褐色					97					2.76~2.89m, 泥質分に富む。
3	3.49	109.53	9.30		凝灰質頁岩	暗褐色										2.89~3.10m, 凝灰分に富む。
4										4.40	100	5	0			傾斜30°と60°の亀裂が発達。風化弱い。著しく風化しており、原岩組織は不明瞭である。
5											100	5	0			3.40~3.83m, 砂～礫状に採取される。
6											100	9	0			3.45~4.00m, 凝灰分に富む。
7	6.50	105.73	3.20		凝灰質頁岩	斑褐色					100	5	0			4.40m以深, 岩片がやや硬質になる。
8	6.80	105.43	3.30		凝灰質頁岩	暗褐色					100	5	0			5.67~5.83m, 泥質分に富む。傾斜30°と60~70°の亀裂が認められる。亀裂面は黒色に変色。下位境界は明瞭で約45°傾斜。
9	7.95	104.77	9.55		凝灰質頁岩	斑褐色					100	5	0			比較的風化弱い。葉理面の傾斜45°。葉理面と平行な亀裂と交差する傾斜30°の亀裂がある。
10	7.99	104.43	9.31		凝灰質頁岩	斑褐色					100	5	0			葉理面傾斜45°。葉理面沿いの亀裂と傾斜30°の亀裂が認められる。亀裂沿いに褐色変質している。
11	9.50	102.83	1.09		凝灰質頁岩	斑褐色					100	4	0			葉理面40~20°傾斜。下位境界は明瞭で20°傾斜。
12											100	6	0			7.90~8.10m, 黒色頁岩。8.10m以深凝灰分に富む。凝灰分の増減による亀裂が認められる。葉理面の傾斜30°。葉理面沿いの傾斜30~50°の亀裂が認められる。亀裂沿いに褐色変質している。9.35~9.45m, 礫15mmの塊状層状砂状コア。下位境界は明瞭で波曲する。
13	11.07	101.26	1.57		黒色頁岩	斑褐色					100	9	0			9.70~9.72m, 9.88~9.89m, 凝灰質な薄層状存在。傾斜10~20°の葉理面に沿う亀裂と傾斜60~70°の亀裂が認められ、高角度亀裂は開口して流入粘土状存在する。
14	11.40	100.93	9.23		凝灰質頁岩	褐色					100	9	0			10.03~10.19m, 凝灰分が固結している。
15	11.85	100.48	9.45		凝灰質頁岩	斑褐色					100	8	0			上位境界は漸移。11.05~11.18mは礫状であるが固結している。上位境界の傾斜約50°。葉理面傾斜20°。
16											100	5	0			11.65~11.75m, φ15~25mmの礫と粘土質の基質。下位境界明瞭。10°傾斜。
17	13.95	98.38	1.60		凝灰質頁岩	斑褐色					100	5	0			12.30~12.55m付近は傾斜50~60°の亀裂面に沿って層理が正断層の変位を生じている。変位量は12.40m付近の亀裂で7cm。12.50m付近の亀裂で5cmである。亀裂面は上方へ向かって複数に分岐する。上位側の亀裂ほど高角度傾斜。
18	13.95	98.38	9.50		凝灰質頁岩	暗褐色					98	7	0			傾斜20°の葉理面沿いと、傾斜50°の亀裂とが発達して岩片状となる。風化弱く岩片は比較的硬質である。
19	15.38	96.96	1.40		凝灰質頁岩	斑褐色					100	15	15			H軟質で凝灰分に乏しい凝灰質頁岩を主体とし、部分的に凝灰分に富む層理を挟む。傾斜20°の葉理面沿いの亀裂が認められる。下位境界は明瞭で傾斜50°。15.80~15.10m, 傾斜60°。亀裂が凝灰質頁岩岩片と粘土で充填され固結している。
20	15.83	95.45	9.57		凝灰質頁岩	暗褐色					100	13	13			傾斜10°の葉理面が認められる。塊状の黒色頁岩を主体として、幅5mm程度の凝灰分に富む薄層を挟む。
21	16.31	95.02	3.53		凝灰質頁岩	暗褐色					100	24	24			16.35m付近は傾斜80°の亀裂面の上盤で風化進み、下盤は新鮮な凝灰岩。下位境界は明瞭で傾斜はほぼ水平。
22	16.83	94.45	9.57		凝灰質頁岩	暗褐色					100	24	24			凝灰分に富む薄層を挟む。
23	17.29	95.04	3.41		凝灰質頁岩	暗褐色					100	7	0			厚さ3m~5cmの黒色頁岩、細粒凝灰岩の薄層を挟む凝灰質頁岩。葉理面の傾斜5~10°。17.35~17.60m, 傾斜70°の亀裂に沿って約3cm正断層の変位。
24	18.90	93.43	1.61		凝灰質頁岩	斑褐色					100	10	20			18.35~18.90m, 凝灰分乏しくなる。葉理面沿いと傾斜50~90°の亀裂が発達して岩片状～細片状となる。
25											100	20	78			岩塊は岩芯まで風化して脆く、原岩組織は不明瞭である。φ2~10mm(最大80mm)の凝灰質頁岩やドレイトの火山礫と粗粒凝灰岩の基質からなる。葉理面の傾斜は約15°。葉理面の傾斜と平行な亀裂が認められ、亀裂面は暗褐色となっている。下位境界は凹凸があるが明瞭で、傾斜約15°。
26	20.75	91.57	1.86		凝灰質頁岩	暗褐色					100	25	70			φ8~50mm(最大110mm)の白色の凝灰質な単角礫～亜円礫と、粗粒で褐色の基質からなり、流紋岩質。岩塊は岩芯まで風化して脆く、原岩組織は不明瞭である。礫の外形に沿って高角度の不規則な亀裂が存在して開口することがある。傾斜40~60°の亀裂が認められ、亀裂面は暗褐色となる。
27											100	30	72			23.00~23.40mは傾斜80°の高角度亀裂が存在し、23.50m付近に幅2mm程度の流入粘土状存在する。
28	23.09	89.24	3.33		凝灰質頁岩	斑白褐色					100	35	100			褐色に風化する。葉理面に沿う亀裂と高角度亀裂によって岩片状となる。
29	23.40	88.93	3.31		凝灰質頁岩	斑白褐色					100	45	62			上位境界は凝灰質頁岩から漸移する。φ3mm以下の火山礫と細粒～粗粒の凝灰岩基質からなる。葉理面の傾斜5~10°。岩塊は岩芯まで風化して原岩組織は不明瞭である。
30	25.22	86.11	3.82		凝灰質頁岩	暗褐色					100	43	74			25.00~25.88m, 新鮮で硬質な岩塊が風化せず残る。葉理面方向の亀裂と傾斜80~60°程度の亀裂の両方で褐色～白色に風化する。下位境界は明瞭で波曲する。
31											100	35	50			岩芯まで風化して脆く、原岩組織は不明瞭である。部分的に風化が弱く、暗褐色の原岩組織が残る。葉理面の傾斜5~10°。
32											100	25	68			27.45m以深は葉理面沿いの低角度亀裂や傾斜80~90°の高角度亀裂などの亀裂が網目状に発達している。亀裂面は暗褐色のものや開口して流入粘土を伴うもの(30.55m付近)が認められる。
33											100	35	75			
34											100	20	34			

B-3 孔(2006) (2/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試験機械		OE-8			
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		P S検層(ダウンホール, サスペンション), ポアホールTV, 孔曲							
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔径	孔内試験項目	深 度 (m)	記 事
20																	
1	31.70	89.63	1.79		凝灰質頁岩	斑褐色		31.11			100	14	14	φ 80mm ダイ・ダブ	P S検層 (ダウンホール)		下位境界は風化しており不明瞭である。下位境界の平均傾斜約20°。
2	32.50	79.74	3.87		凝灰岩	斑褐色	C L		γ 4		100	32	78				長径3mm程度の扁平な火山礫を含む。岩芯まで風化して原岩組織は不明瞭である。傾斜30°の葉理面に沿って亀裂が発達する。下位境界は明瞭直線的で傾斜約30°。
3											100	7	0				比較的均質な凝灰質頁岩を主体とする。33.50~34.00m, 粗粒凝灰岩。葉理面の傾斜10°。葉理面沿いや傾斜80°の高角度の亀裂のほか、全区間に不規則な網目状の亀裂が認められる。部分的に亀裂が密に発達して角礫状に細片化する。亀裂沿いやその周辺で褐色酸化する。
4	34.70	77.63	2.13		凝灰質頁岩	斑褐色		34.00			100	8	0				
5	35.20	77.04	0.69		火山礫 灰岩	斑褐色		36.11	55.35	36.53	100	13	13				φ2~6mmの火山礫と細粒凝灰岩の基質からなる。下位境界に向かって粒径が大きくなり、凝灰質頁岩へ漸移する。34.95~35.30m, 岩芯まで風化して脆弱。
6											100	28	60				φ5~50mm(最大70mm)の凝灰質頁岩や粗粒凝灰岩などの正円~亜角礫からなる火山礫と、凝灰岩の基質からなる。傾斜50~70°の高角度亀裂が存在する。一線に岩芯まで風化しており原岩組織はやや不明瞭。
7											100	18	48				39.87~40.61m, 粘土化して軟質。周辺は部分的に硬質となる。
8											100	31	76				40.40~40.61mは砂と岩片からなり固結する。
9											100	25	82				40.70~41.40mは砂・基質境界や網目状亀裂に沿って褐色風化しており新鮮部もわずかに残る。
40						淡褐色	D	39.87	39.87	39.87	100	41	64				
						灰白暗褐色	D	40.45	40.45	40.45	100	41	64				
1	41.40	79.30	5.11		凝灰質頁岩	斑褐色	C L				100	16	24				泥分を含む細粒凝灰岩。傾斜60°の高角度亀裂を含む網目状亀裂に沿って褐色風化。
2	41.88	79.46	3.48		凝灰岩	褐色	C M				100	24	36				41.88~42.57mは泥分豊富な凝灰質頁岩。
3											95	15	15				42.57~46.50mは熱水変質による褐色が認められる。葉理面の傾斜は上部は40°であるが下部に向かって20°まで変化する。区間全体に渡って葉理面沿いと高角度の亀裂が認められ、亀裂面は褐色酸化する。
4											100	20	62				42.57~43.00mは葉理面沿いと高角度の亀裂が密集して角礫状に採取される。亀裂面は褐色酸化するが組織は認められない。
5											100	20	40				45.16~45.50m, 46.00~46.20m, 傾斜80°の高角度亀裂に沿って風化が進み脆い。
6											100	7	0				46.65~46.67m, 幅2cmの風化粘土。傾斜ほぼ水平。
7	47.35	65.06	3.46		凝灰質頁岩	褐色	C M				100	26	42				46.67m以深は凝灰分に富み、下位の凝灰岩へ漸移する。
8	48.15	64.26	3.89		凝灰岩	褐色	C L				100	30	30				46.85~47.07m, 高角度亀裂沿いの白色脈が溶脱して、亀裂面に白褐色の残留鉱物を伴って開口する。
9	48.75	63.57	3.63		凝灰質頁岩	褐色	C M				100	26	42				細粒~中粒の凝灰岩、傾斜5°の葉理に沿って剥離し易い。葉理面沿いと、ほぼ鉛直の亀裂面に沿って褐色酸化する。
50	48.75	63.57	3.63		凝灰質頁岩	褐色	C M				100	18	56				傾斜80~60°の亀裂面に沿って褐色酸化する。白色脈は溶脱して部分的に残る。亀裂面の固色は一致しない。
1	49.70	62.63	3.94		凝灰岩	褐色	C L				100	24	40				48.75~49.14m, 細粒~中粒凝灰岩。49.14~49.43m, 火山礫を含む粗粒凝灰岩。以深は粗粒凝灰岩。上位境界は砂質。岩芯まで風化して原岩組織は不明瞭。傾斜80°の高角度亀裂沿いに白色脈が開口。
2	51.45	69.88	1.75		凝灰質頁岩	褐色	C L				100	9	0				傾斜20°の葉理面沿いの亀裂と、傾斜40°の亀裂が発達して板状~岩片状となる。亀裂面に沿って褐色酸化する。50.91~50.97m, 幅1.5cm傾斜20°で開口する。弱く熱水変質して白色脈を伴う。51.14~51.30m, 高角度亀裂が密に発達して岩片状となる。葉理面傾斜15°。
3	51.84	69.49	3.39		凝灰岩	褐色	C L				97	7	0				熱水変質により亀裂周辺に黄白色の泥質分を伴う。岩質やや脆い。
4	54.00	68.33	3.16		黒色頁岩	黒灰					100	12	24				塊状の黒色頁岩を主体とし、幅数mmの凝灰質頁岩薄層を挟在する。葉理面の傾斜15°。葉理面沿いと傾斜80°の高角度亀裂が認められ、亀裂に沿って褐色に酸化する。
5	54.50	67.84	3.69		凝灰質頁岩	斑褐色					100	17	31				51.84~52.56mは亀裂が密に発達して岩片状となる。上位境界は明瞭で傾斜15°、下位境界は幅2cmで細片状。
6	54.99	67.44	3.39		黒色頁岩	黒灰	C M				100	15	27				52.21~52.26m, 熱水変質して脱色。
7	56.78	65.66	1.49		凝灰質頁岩	褐色					100	17	58				弱く熱水変質して脱色する。葉理面の傾斜15°。上位境界は明瞭で直線的であり傾斜15°で密着。下位境界は明瞭で傾斜40°、弱く波曲する。傾斜60°程度と葉理面沿いの亀裂が認められる。亀裂沿いに褐色酸化し、岩片内部も弱く褐色酸化する。
8											100	7	0				54.78~54.80m, 亀裂が密に発達するが固結している。葉理面傾斜20°。
9											100	14	14				弱く熱水変質して脱色する。葉理面の傾斜15°。上位境界は明瞭で直線的であり傾斜15°で密着。下位境界は明瞭で傾斜40°、弱く波曲する。傾斜60°程度と葉理面沿いの亀裂が認められる。亀裂沿いに褐色酸化し、岩片内部も弱く褐色酸化する。
60											100	11	11				比較的均質な黒色頁岩。葉理面傾斜は、56.38~57.08mが約30°、以深は約10°。葉理面沿いと傾斜80~60°の亀裂が認められ、亀裂沿いは全体に褐色酸化している。

B-3 孔(2006) (3/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試験機械		OE-8		
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		P S 検層(ダウンホール、サスペンション)、ボアホールTV、孔曲						
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 れ 日 状 態	風 化 程 度	コア 採取 率 (%)	最 大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	孔 径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
60	89.42	82.21	7.21		凝灰質頁岩	黒灰	CL	土質岩塊状 砂片片柱 表状状状状		2	100	16	38			下位境界付近の60.78~60.96mは凝灰分が多く凝灰岩に漸移する。
1	89.98	81.37	0.81		凝灰質頁岩	灰黒灰			β	2	100	21	31			層状で粗粒。葉理面の傾斜10°。上位は泥岩を含み、下位へ向かって粗粒凝灰岩へ漸移する。下位境界は葉理面が不明瞭で密着。
2	81.45	80.90	0.47		凝灰岩	黒灰				2	100	13	24			塊状の黒色頁岩。葉理面の傾斜約10°。葉理面沿いと傾斜80°の高角度の亀裂が認められ、特に高角度亀裂に沿って褐色風化する。82.36m、層厚10cmの粘土シームを伴って層状の粗粒状となる。82.36m、0.6m区間が粘土を伴って片状となる。
3	82.91	49.32	1.63		黒色頁岩	黒灰	CL			2	100	16	31			熱水変質によって亀裂沿いに褐色化する。下位境界付近で熱水変質が強く認められる。63.48~63.68m、葉理面沿いと高角度の亀裂密集して角礫状となり、風化が進んでやや軟質。
4	84.09	47.34	1.68		凝灰質頁岩	灰黒灰				2	100	29	58			64.21~64.25m、層厚4cmの区間が葉理面と調和的に傾斜10°で幅1.2cmの粘土を伴って砂状に破砕される。
5	85.12	47.31	0.43		凝灰岩	黒灰			β	2	100	8	0			中粒凝灰岩を主体とする。傾斜80°の高角度の粗粒状褐色風化。
6	86.12	46.21	1.09		黒色頁岩	黒灰	CH			2	100	21	38			葉理面の傾斜10°。下位で20°。65.50~65.65m、層厚15cmで層状で層状に褐色に風化。65.65~65.72m、層厚7cm、傾斜80°の葉理面と葉理面沿いの亀裂に沿って褐色に風化する。
7	86.45	45.90	0.31		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	16	42			粗粒凝灰岩。傾斜60°の亀裂沿いに褐色風化する。
8	88.28	44.26	1.85		黒色頁岩	黒灰	CM			2	100	11	21			塊状で比較的均質な凝灰質頁岩。65.28~65.76m、凝灰分を含み、下部は乱堆積構造が認められる。下位境界付近は粗粒凝灰分が増し、凝灰岩へ漸移する。葉理面の傾斜20°。葉理面沿いと傾斜60°の高角度亀裂が認められる。
9	79.42	41.91	2.11		凝灰質頁岩	灰黒灰	CM			2	100	22	37			70.04~70.06mは葉理面に沿って岩片状~細片状に破砕。亀裂面は弱く褐色風化する。粘土シームは認められない。
1	79.92	41.41	0.59		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	23	53			粗粒凝灰岩。葉理面の傾斜約20°。弱く熱水変質して褐色。葉理面沿いに剥離しやすい。
2	71.30	41.49	0.19		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	17	45			塊状で亀裂の比較的小さい黒色頁岩。71.34~71.36mには長径5~8mmで軸比6~2程度に扁平な楕円形の白色の炭酸塩鉱物が散在する。長軸方向は約10°傾斜の葉理面とほぼ平行である。
3	71.65	41.41	0.16		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	25	64			亀裂面は葉理面に平行なものと傾斜約70°の高角度のものが認められる。亀裂沿いに白色風化を伴う。72.77m深では亀裂面が褐色風化する。いくつかの亀裂面周辺には細粒の炭酸塩鉱物が認められる。
4	72.77	41.41	0.14		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	28	35			上位境界は明瞭で傾斜約30°。下位境界は凝灰分が増加して凝灰質頁岩へ漸移する。
5	74.59	37.30	3.69		黒色頁岩	黒灰	CL			2	100	21	37			葉理面の傾斜は上部では約30°であるが下部では約10°。74.56~74.67m、葉理面に沿って褐色風化する。74.68~74.73m、亀裂が密集して角礫状であり岩片全体に風化が及ぶ。75.06~75.21mは傾斜60°と葉理面沿いの亀裂が密に発達して岩片状~砂状となる。下位境界は明瞭で傾斜約10°。層厚3cmの粘土シームを伴う。上位境界は葉理面により入り組む。同様の亀裂発達傾向は75.30~75.40mにも認められる。
6	75.84	36.46	1.34		凝灰質頁岩	灰黒灰	CM			2	100	8	0			熱水変質して褐色する。葉理面の傾斜約30°。上位境界付近に灰色粘土シームを伴う。
7	77.32	36.34	1.49		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	17	40			77.97~78.00mは細片状。層厚2mmの軟質粘土シームを葉理面と平行に伴う。
8	78.46	33.97	1.14		凝灰質頁岩	灰黒灰	CL			2	100	21	21			78.42~78.46mは層厚2.9cmで粘土混じりの細片状だが掘進長下端となった影響で組織が乱れている。
9	79.37	33.97	0.91		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	9	0			比較的均質な塊状の黒色頁岩。80.16~80.24m、80.35~80.37m、80.58~80.61m、80.68~80.70m、80.73~80.75mは凝灰質頁岩や凝灰岩の薄層を傾斜10°の葉理面と調和的に挟む。葉理面沿いに剥離しやすい。
1	80.35	33.97	0.92		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	18	32			79.25~79.70mは傾斜80°の直線的な高角度亀裂が認められる。亀裂面には白色の方解石や沸石からなる鉱物膜が溶脱している。
2	80.35	33.97	0.92		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	17	65			81.57~81.15mでは亀裂面が褐色風化する。
3	81.57	33.97	0.92		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	20	50			80.75~82.65mには長径3~12mm、軸比8程度まで扁平な白色の炭酸塩鉱物が散在する。
4	82.72	33.97	0.92		凝灰岩	灰黒灰	CH			2	100	32	61			82.71~82.73m、層厚13mmの粘土シームを伴う軟弱部。傾斜10°で全体的に弱く褐色風化する。
5	83.98	29.41	3.44		黒色頁岩	黒灰	CM			2	100	12	12			下位境界は葉理面と平行して直線的であり密着する。
6	85.25	27.38	1.35		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	25	92			細粒凝灰岩、凝灰質頁岩、黒色頁岩が幅数mm~3cm程度の厚さで繰り返す。葉理面の傾斜は一様で約10°。全区間に渡って淡褐色に風化している。傾斜80~90°の粗粒亀裂に沿って白色脈が充填するが、一部で溶脱して開口している。
7	85.76	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			均質な塊状の凝灰質頁岩。葉理面傾斜約10°。
8	86.25	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	80	100			葉理面の傾斜5~10°。傾斜60~80°の高角度亀裂が認められ、亀裂面は褐色である。岩塊内部まで灰褐色に風化するが、岩片は比較的硬質である。
9	86.75	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			89.08~89.42mは新鮮である。
1	88.28	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	30	77			85.75~86.73m、中粒凝灰岩。
2	88.78	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			86.73~86.94m、火山礫を伴う粗粒凝灰岩。
3	89.38	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			86.94~88.48m、粗粒凝灰岩。
4	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			88.48~88.68m、中粒凝灰岩。
5	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			88.68~88.75m、新鮮な黒色頁岩。下位は凝灰分を含む。
6	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			88.75~89.42m、火山礫を伴う粗粒凝灰岩。
7	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
8	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
9	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
1	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
2	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
3	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
4	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
5	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
6	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
7	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
8	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
9	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
1	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
2	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
3	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
4	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
5	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
6	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
7	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
8	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
9	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
1	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
2	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
3	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
4	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
5	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
6	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
7	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
8	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
9	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
1	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
2	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
3	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
4	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
5	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
6	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
7	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
8	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
9	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
1	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
2	89.88	26.78	0.50		凝灰質頁岩	灰黒灰	CH			2	100	83	100			
3	89.88	26.78	0.50													

B-3 孔(2006) (4/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試錐機械		OE-8	
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		P S 検層(ダウンホール, サスペンション), ボアホールTV, 孔曲					
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 土短岩短柱状 砂片片柱状 状状状状状状	割 風 れ 化 日 程 状 度	ニ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	孔 径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
90	90.20	22.13	0.20		高品位凝灰岩	黒色	C L		90.21 90.25	100	22	36			馬色酸化は葉理面沿いと高角度の亀裂面に沿って強く、層状にも及ぶ。
	90.42	21.71	0.42		高品位凝灰岩	黒色	C L		90.25 91.70	100	22	36			傾斜約10°の葉理面に沿って割れ易い。傾斜約30°の高角度の亀裂とその周辺で馬色酸化認められる。上下境界は不明瞭で漸移。
1	91.30	21.03	0.68		黒色頁岩 凝灰質頁岩	黒色 灰黒	C M		91.70 91.70	100	37	88			91.43~91.68m、凝灰質に富み、上方粗粒化。以深は泥質分に富み、割れ易い。葉理面傾斜25°。
2	92.04	20.32	0.71		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒 灰	C H		92.04 92.51	100	28	91			中粒~粗粒凝灰岩。上方粗粒化する。凝灰質は葉理面をゆるやかに繰り返す。塊状。葉理面の傾斜約10°。上位境界、下位境界とも明確で葉理面と調和的。
3	93.24	19.09	0.93		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒 灰	C H		92.51 93.24	100	38	79			塊状の黒色頁岩。凝灰質を含む層状を伴う。葉理面の傾斜約20°。葉理面沿いと、傾斜70°の高角度の亀裂が認められる。葉理面に沿って割れ易い。下位境界は明確だが波曲して平均傾斜10°。
4	94.41	17.92	1.17		黒色頁岩 凝灰質頁岩	黒色 灰黒	C H		93.24 94.41	100	23	65			乱層構造認められる。葉理面は傾斜5~20°まで変化する。下位境界付近で凝灰質増加して凝灰岩へ漸移。
5	95.07	17.26	0.66		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒 灰	C M		94.41 95.07	100	38	77			95.07~95.09m、凝灰質凝灰岩。上位の95.07~95.40mでは泥質分を含む。95.40~95.70mでは傾斜約30°の亀裂に沿って基本変質しており、岩片も全体的に着色して原岩組織は不明瞭である。95.70m、凝灰質で賦質化。傾斜約40°、95.70~95.79m、傾斜約30°の亀裂面は黄色に酸化している。亀裂は約1mm程度まで開口する。黄色酸化は凝灰質の内部に及ぶ。原岩組織は不明瞭。95.79~96.05m、凝灰質で賦質した凝灰岩。熱水変質により凝灰岩。葉理面の傾斜約15°。96.07~97.17m、火山礫を伴う粗粒凝灰岩。泥質分の増加による葉理面が傾斜約10°で認められる。96.79~96.82mは岩片全体が黄褐色を帯び、傾斜に酸化している。傾斜75~90°の高角度の亀裂が認められるが強く連続性には乏しい。97.17~97.84m、比較的均質な中粒凝灰岩。葉理面の傾斜約5°。傾斜約60°の亀裂が認められるが連続性もなく色着する。97.84~97.96m、黒色頁岩を葉理面と調和的に賦質。97.96~98.17m、均質な粗粒凝灰岩。葉理面の傾斜約5°。98.80m以降では2~3mmの白色火山礫を含む。下位の火山礫凝灰岩へ漸移する。
6					凝灰質頁岩	灰黒	C M		95.07 95.35	100	38	77			
7					帯黄灰白 灰白				95.35 95.72	100	38	77			
8									95.72 97.23	100	100	100			
9	99.17	13.16	4.10		凝灰質頁岩 白灰				97.23 99.17	100	47	89			
100										100	64	100			
1										100	53	100			φ2~8mm(最大12mm)程度の黒色や白色の火山礫と、粗粒凝灰岩の集まりからなる。葉理面方向に伸長して傾斜な火山礫や泥質分の含有量の違いによる塊状構造からなる面構造は100.55mまで傾斜5°、以深は傾斜10~20°。全体に亀裂はほとんど認められない。100.55~100.74m、φ20mm程度までの粗粒な火山礫を含む。下位へ向かって火山礫の粒径が大きくなり、下位の凝灰質凝灰岩へ漸移する。
2										100	100	100			
3	103.39	0.03	4.13		火山礫凝灰岩		C H			100	94	94			
4										100	100	100			φ6~40mm(最大50mm)の黒色頁岩、凝灰質頁岩、安山岩、凝灰岩からなる垂直~亜垂直の火山礫と、部分的に泥質分に富む粗粒凝灰岩の集まりからなる。107.00~107.45m、基質は泥質分に富む。107.45mは幅2~12mmの泥岩薄層を挟む。109.59mは深も基質が泥質分に富み、110.59m以深では泥質分が優勢となる。傾斜60~80°程度の亀裂が認められる。亀裂面は火山礫を含む不均質な組成を反映して不規則である。亀裂は短く連続性に乏しく、密着することが多い。下位境界付近の111.24~111.30mは火山礫に乏しい。111.30~111.35mは火山礫を伴う。111.13m以深は熱水変質により灰色する。火山礫は外周が強く脱色している。下位境界は傾斜約10°。
5										100	100	100			
6										100	100	100			
7										100	76	100			
8										100	77	100			
9					凝灰質頁岩					100	77	100			
110										100	24	100			
1	111.35	0.98	0.56		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒	C M		106.57 111.35	100	36	100			熱水変質して脱色が進み、原岩組織は不明瞭である。葉理面の傾斜約20°。葉理面沿いと不規則な亀裂面の高角度の亀裂が発達して短片状~短柱状となる。岩片は硬質である。
2	112.29	0.13	0.38		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒 灰	C M		111.35 112.29	100	9	3			上位境界下位境界とも密着する。岩片硬質。
	112.69	-0.27	0.40		凝灰質頁岩 凝灰質頁岩	灰黒 灰	C M		112.29 112.69	100	30	88			中粒~粗粒の凝灰岩を主体とする。熱水変質により著しく脱色しており原岩組織は不明瞭である。葉理面の傾斜は5~20°と推定。亀裂はほとんど認められない。岩片は硬質である。
3										100	50	91			
4										100	59	95			113.50m付近、コア表面の一部に貫入したドレライトが認められる。
5	113.31	2.99	2.71		凝灰質頁岩 灰白		C H		112.69 113.31	100	53	92			114.89~115.03m、傾斜20°の葉理面に沿ってドレライトを挟む。境界面は密着する。
6										100	46	96			φ2~4mmの黒色の輝石斑晶と細粒な暗緑灰色の基質からなる。上位境界は凝灰岩の葉理面と平行で傾斜約20°。明確で直線的な境界で密着する。上位境界付近の幅3cmでは傾斜や粒径の違いによる塊状構造が境界面と平行に認められる。
7										100	80	80			118.10~118.70m、基質が比較的粗粒となる。下位境界付近の118.80~119.22mではドレライトと凝灰岩や凝灰質頁岩が混在する。それらの境界は明確で不規則または不明瞭である。下位境界に入り組むが平均傾斜は約10°。傾斜約40°と80°の亀裂が認められる。
8										100	30	80			
9	112.22	-6.89	3.91		ドレライト 暗緑灰				117.91 118.05	100	30	80			傾斜約20°の葉理面をもつ粗粒~中粒凝灰岩を主体とする。熱水変質により脱色し、原岩組織は一部不明瞭。
120					凝灰質頁岩 凝灰質頁岩					100	50	100			119.50~119.59m、黒色頁岩岩片を含むドレライト。凝灰岩との境界不規則で密着。

B-3 孔(2006) (5/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試錐機械		OE-8		
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		P S 検層(ダクンホール, ナスベンション), ボアホールTV, 孔曲						
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔 径	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
120	120.00	-7.87	0.29		凝灰岩 斑状凝灰岩			上層岩類柱状 砂片片柱 柱状状状状状		2	100	100	100	ボアホールTV	P S 検層(ナスベンション)	熱水変質して脱色する。120.32~120.40m, ドレライト伴う。更なる。上位境界は不明瞭で不規則に密着する。
1	120.00	-8.60	0.73		火山凝灰岩 凝結凝灰岩					1	100	50	100			φ2~4mmの黒色の輝石斑晶と、凝結凝灰岩の基質からなる。凝結凝灰岩の黒色の輝石斑晶からなる脈が認められる。黒色脈は方解石や沸石からなる白色脈を伴う。φ5~10mmの円形の空腔を埋めて白色脈が抽出する。上位境界は不明瞭だが入り組み密着する。平均傾斜20°。122.50~122.50m、凝結凝灰岩とドレライトが混在する。平均傾斜20°。123.50~123.94m、火山凝結凝灰岩とドレライトが混在する。境界は不明瞭だが密着する。下位境界は入り組みが明瞭で密着し、平均傾斜10°。
2							CH			1	100	52	98			
3										1	100	44	93			
4	123.04	-11.61	3.01		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	45	93			熱水変質を受け脱色して原岩組織は不明瞭。上下境界は密着する。葉理面の傾斜は50~60°と急傾斜である。
5	124.68	-12.38	0.76		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	45	93			124.69~125.50mは暗緑色のドレライトと凝結凝灰岩の黒色質岩が凝結凝灰岩に混在する。125.21~125.43m、熱水変質した凝結凝灰岩。125.25m、傾斜10°傾斜10°の粘土層。125.50~126.06mは塊状のドレライト。下位境界は入り組みが密着する。
6	126.08	-15.75	1.39		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	37	87			熱水変質した凝結凝灰岩。下位へ向かって凝結凝灰岩が増して凝結凝灰岩に漸移する。
7	126.66	-14.33	0.68		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	37	87			熱水変質して原岩組織不明瞭。下位境界明瞭で傾斜15°。葉理面に沿って貫入したドレライトを伴う凝結凝灰岩。127.24m以浅と127.46m以深は熱水変質して脱色する。葉理面の傾斜約10°。
8	127.88	-13.65	0.92		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	88	100			上位境界明瞭で傾斜10°。下位境界は漸移。
9	128.23	-13.99	0.35		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	41	70			熱水変質により脱色して原岩組織は不明瞭。128.61~128.70m、岩片状~短棒状コアとして採取される。下位へ向かって凝結凝灰岩が増し凝結凝灰岩に漸移する。
10	129.23	-15.99	1.60		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	100	100			熱水変質により脱色して原岩組織は不明瞭。亀裂は密着して密着し、硬質である。
11	130.24	-17.91	1.61		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	48	98			熱水変質により脱色して原岩組織は不明瞭。130.25~130.35m、130.98~131.13m、黒色質岩が熱の影響を受けて黒雲母を生じ赤褐色となる。岩片は硬質である。葉理面の傾斜20°。
12	131.42	-19.14	1.23		凝灰岩 凝結凝灰岩					1	100	72	88			暗緑色で細粒のドレライト、凝結凝灰岩、暗緑色の凝結凝灰岩質岩が凝結凝灰岩に混在する。凝結凝灰岩や凝結凝灰岩は熱水変質により原岩組織不明瞭である。それぞれの外形は不規則に入り組んでいる。凝結凝灰岩の外形は葉理面に沿って直線的な場合がある(133.35m、134.17m付近など)。それぞれの岩相境界は密着しており、亀裂は比較的少ない。
13										1	100	82	99			
14										1	100	41	82			
15	134.41	-22.08	2.91		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	83	85			熱水変質を受けて原岩組織は不明瞭。上下境界も不明瞭で漸移する。ドレライトに捕獲された岩塊と考えられる。
16	134.06	-22.62	0.64		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	57	83			暗緑色で細粒のドレライトと凝結凝灰岩、暗緑色の凝結凝灰岩質岩が凝結凝灰岩に混在する。それぞれの外形は不規則に入り組んでいる。下位境界は入り組みが明瞭で密着する。
17										2	100	54	64			
18	137.14	-24.81	2.19		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	36	97			細亀裂多いが密着して固結している。葉理面傾斜30°。
19	137.60	-25.17	0.36		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	25	78			ドレライトと凝結凝灰岩が混在する。
20	137.94	-25.61	0.44		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	25	78			細亀裂を伴う。葉理面傾斜約10°。
21	138.24	-25.91	0.39		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	50	94			暗緑色のドレライトと凝結凝灰岩の凝結凝灰岩が混在する。両者の境界は傾斜10°の葉理面と平行であることが多く、比較的直線状で密着する。下位境界は傾斜20°。
22										2	100	50	94			細亀裂発達して、白色脈が充填。亀裂に密着して固結。
23	139.70	-27.37	1.46		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	52	84			上位境界は不明瞭だが明瞭。下位境界は不明瞭で漸移する。140.78~140.91m、蛇紋石からなる黒色脈が網目状に発達。
24	140.98	-27.95	0.68		凝灰岩 凝結凝灰岩					2	100	43	66			141.63~141.67m、白色脈と硫化鉄物で亀裂を充填されたカクレーサイトで傾斜約60°。
25	141.46	-29.07	1.12		凝灰岩 凝結凝灰岩					1	100	36	82			φ2~3mmの黒色の輝石斑晶と、暗緑灰色で凝結凝灰岩の基質からなる。蛇紋石からなる黒色の脈が認められる。脈の傾斜に明瞭な傾向は認められず、密に発達したところでは網目状となる。143.97~145.19mでは傾斜度の黒色脈が卓越する。方解石や沸石からなる白色脈も存在する。それぞれ単独で存在することもあるが、145.80m付近や146.34m付近では黒色脈の内部に白色脈を伴う。164.25m付近や168.68m付近では、白色脈が黒色脈によって埋められている。
26	141.98	-29.65	0.69		凝灰岩 凝結凝灰岩					1	100	61	100			上位境界付近の141.98~141.13mと、143.83~144.56mは、斑晶少なく細粒である。上位境界は不規則に入り組みやや不明瞭である。
27										1	100	24	87			
28										1	100	74	100			
29										1	100	74	100			
30										1	100	35	93			

B-3 孔(2006) (6/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試錐機械		OE-8			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		PS検層(ダウンホール, サスペンション), ボアホールTV, 孔曲			
標尺	深度	標高	層厚	柱状図	地質種別	色調	岩級	コア形状区分	割れ目状態	風化程度	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	孔径	孔内試験項目	記	事
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)					土廻岩塊柱状 砂片片柱状 状状状状状						ビット コアチップ	ボアホールTV PS検層(ダウンホール) PS検層(サスペンション)		
150																	
1							CH				100	56	100				
2											100	66	100				
3							CM				100	33	54				
4											100	21	41				
5							CH				100	85	85				
6											100	69	100				
7											100	44	99				
8							CM				100	51	77				
9											100	20	20				
160							CH				100	18	32				
1											100	25	69				
2							CM				100	17	17				
3							CH				100	9	0				
4							CH				100	25	25				
5							CH			1	100	30	80	φ 66mm ダイヤグラブ			
6							CH				100	17	63				
7							CH				100	36	59				
8							CM				100	33	88				
9											100	20	20				
170							CH				100	48	88				
1											100	83	100				
2											100	52	92				
3							CH				100	42	82				
4											100	38	100				
5							CM				100	24	57				
6											100	28	65				
7							CH				100	27	96				
8											100	15	33				
9											100	22	40				
180					ドレイト 積層灰		CM				100	40	72				

152.60~152.85m 黒色の暗紋石脈の細片を伴う軟弱な幅12m程度の淡緑灰色粘土を挟在する角礫で、傾斜約80°。母岩に破砕は認められない。亀裂面に付着する蛇紋石には光沢ある鏡面が認められ、条線のレークは約80°
153.70~158.42m 基質はやや粗粒で淡色を呈す。この区間の上位境界は漸移し、下位境界は158.22~158.42mの間で、組成の違いによる縞状構造が傾斜5~10°で認められ漸移する。
174.50~174.70m 同結しているが岩片~砂状に破砕しており、ハンマーの軽打で砕ける程度に脆弱。上下境界の傾斜約30°。同方位の白色脈や黒色の蛇紋石脈を伴う。

B-3 孔(2006) (7/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試験機械		OE-8				
角度	—		方向	—		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		PS検層(ダウンホール、サスペンション)、ボアホールTV、孔曲						
標尺	深 度	標 高	層 厚	柱 状 区	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 土質岩種注長 砂片片柱 柱 状状状状状状	割 れ 日 状 態	風 化 程 度	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	孔 径 ビ ット コ ア チ ャ ー プ	孔内試験 項目 深度(m)		記 事	
180	—	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	52	67	—	ボアホールTV PS検層(ダウンホール) PS検層(サスペンション)	201.60m以深、基質に蛇紋石を生じて色調が暗くなる。 203.01m以深では亀裂面に砂状の破砕粒子を挟在する亀裂が認められる。同様の亀裂は以下のとおり。 203.60m、幅不明、傾斜約30°。 204.15m、幅約5mm、傾斜約70°。 208.25m、幅約5mm、傾斜約80°。 207.88~208.00m、砂状~岩片状に破碎され、固結しているがハンマーの軽打で砕ける程度に脆弱。白緑色のレンズ状岩片の長軸はほぼ水平で傾比5程度まで伸長する。暗緑色の藍斑が網目状にレンズ状岩片を取り囲む。剪断面はほぼ水平と考えられる。 主要な亀裂は以下のとおり。 208.10m、幅約8mm、傾斜約40°。 209.78m、幅約10mm、傾斜約40°。 211.15m、幅不明、傾斜約70°。 211.50m、幅不明、傾斜約60°。 208.10m、幅不明、傾斜約60°。		
1	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	36	71	—					
2	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	76	98	—					
3	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	43	100	—					
4	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	54	90	—					
5	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	55	92	—					
6	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	46	71	—					
7	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	47	100	—					
8	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	47	100	—					
9	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	35	70	—					
190	—	—	L	—	—	CH	180.07	—	—	100	28	85	—					
1	—	—	L	—	—	CM	193.89 191.25	191.40	—	—	100	15	28	—				
2	—	—	L	—	—	CH	191.25	191.65	—	—	100	44	64	—				
3	—	—	L	—	—	CH	191.25	191.71	α	—	100	39	90	—				
4	—	—	L	—	—	CH	191.25	191.80	—	—	100	38	90	—				
5	—	—	L	—	—	CH	191.25	191.82	—	—	100	51	78	—				
6	—	—	L	—	—	CH	191.25	194.82	—	—	100	37	83	φ 56mm/n タリタリ				
7	—	—	L	—	—	CH	191.25	194.82	—	—	100	31	85	—				
8	—	—	L	—	—	CH	191.25	195.79	—	—	100	26	78	—				
9	—	—	L	—	—	CH	191.25	197.15	—	—	100	27	75	—				
200	—	—	L	—	—	CH	191.25	198.32	—	—	100	63	96	—				
1	—	—	L	—	—	CH	191.25	198.85	—	—	100	45	80	—				
2	—	—	L	—	—	CH	191.25	200.06	—	—	100	40	77	—				
3	—	—	L	—	—	CH	191.25	201.50	—	—	100	23	88	—				
4	—	—	L	—	—	CM	205.01	205.31	γ	—	100	28	89	—				
5	—	—	L	—	—	CH	205.01	205.97	γ	—	100	23	40	—				
6	—	—	L	—	—	CH	205.01	204.30	—	—	100	25	49	—				
7	—	—	L	—	—	CH	205.01	205.96	α	—	100	28	75	—				
8	—	—	L	—	—	CH	205.01	206.38	α	—	100	29	45	—				
9	—	—	L	—	—	CH	205.01	206.85	—	—	100	29	45	207.00				
210	—	—	L	—	—	CM	207.87	207.87	γ	—	100	17	58	—				
1	—	—	L	—	—	CH	207.87	208.51	γ	—	100	25	45	—				
2	—	—	L	—	—	CH	207.87	209.33	α	—	100	18	63	—				

B-3 孔(2006) (8/8)

孔口標高		T.P. +112.33 m		掘進長		213.00 m		調査期間		2006年 9月 4日 ~ 2006年 10月 20日		試錐機械		OC-8		
角度		方向		孔内水位		T.P. +4.30 m		孔内試験項目		PS検測(ダウンホール, サスペンション), ボアホールTV, 孔曲						
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	層 厚 (m)	柱 状 区 別	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 十短岩短柱長 砂片片柱 状状状状状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	孔径 ビット コアチップ	孔内試験 項目 深度(m)	記 事
210																
1				L			CH	211.12	211.12	211.15	100	30	67			
2				L			CM	212.19	212.19	212.19	100	18	18	φ 50mm/n ゲージゲージ		ボアホールTV
3	213.00	-100.67	3.00	L	ドレイト	暗緑灰	CH	213.00	213.00	213.00	100	50	90			213.00
4																
5																
6																
7																
8																
9																
220																
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
230																
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
240																





No.322 孔 (1/5)

孔口標高		T.P. +14.37 m		掘進長		125.00 m		調査期間		1998年 2月 10日 ~ 1998年 3月 6日		試錐機械		D-1B			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +11.98 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・三軸圧縮試験・R・74-JTY			
標尺	深	標	層	柱	地	色	岩	コア形状	割	風	コア	最大	R	孔	孔内試験	記	事
(m)	(m)	高	厚	状	質	調	級	区	れ	化	採取	コア	Q	径	項目		
		T.P. (m)	(m)	図	理		分	土質短柱状 砂片柱状 伏状塊状	目	程	(%)	(cm)	(%)	φ	深度(m)		
0						赤褐					100			φ 86mm JTB-ツグA			φ1~4mm黄褐色岩片(軽石と推定)及び流紋岩質を伴った。強風化を被る。0.30~0.35mm間層状。有機分を含むため黒色を帯び、植物根を含む。1.10~1.20mm間φ2mm程度酸化木片混入。
1						赤褐					100			φ 86mm JTB-ツグA			部分的に岩石組織を残しているが、強風化により粘土状を呈する。φ2~10mm流紋岩が散在。2.75~2.90mm間高角度割れ目発達。黒色夾在物が付着。下位との境界は不明瞭(5")。
2	1.10	78.27	2.10	麻呂シ ルト		赤褐					100			φ 86mm JTB-ツグA			厚さ数mmの黒色頁岩及び流紋岩質を伴った中〜粗粒凝灰岩。強風化により、粘土状を呈するが岩石組織は明瞭。3.40~3.60mm間高角度割れ目発達。5"の傾斜発達。下位との境界は不明瞭。
3	2.87	71.36	8.77	火山礫 凝灰岩		暗褐					100	0	0	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~10mm流紋岩質を伴った火山礫凝灰岩からなる。強風化により砂状〜粘土状を呈し、部分的に岩石組織を残す。下位との境界は不明瞭。3.30~4.07mm, 4.28~4.60mm, 4.90~5.75mm間黒色夾在物付着。暗色を呈する。大半は土砂状のため岩相が不明瞭であるが、5.20~5.70mm間層状と推定される。6.97~7.25mm間高角度割れ目発達。
4	2.89	78.37	8.95	凝灰岩		赤褐					100	0	0	φ 86mm JTB-ツグA			
5						暗褐					100	0	0	φ 86mm JTB-ツグA			
6						暗褐					100	0	0	φ 86mm JTB-ツグA			
7	7.45	66.22	2.67	火山礫 凝灰岩		褐					100	0	0	φ 86mm JTB-ツグA			7.70~8.05mm間部分的に短片状を呈し、堅硬ではあるが全体に塊状の黒色頁岩。層理はあまり発達せず不明瞭。下位との境界は不明瞭。8.05~8.09mm間層状灰色凝灰岩に風化粘土(厚さ50mm, 0")。割れ目に規則性みられず、30~40"割れ目発達。
8	8.31	68.18	8.76	黒色頁岩		黒灰					95	4	0	φ 86mm JTB-ツグA			強風化を被っており、一部の割れ目を中心に短片化が認められる。φ1~10mm流紋岩を主体とする火山礫凝灰岩からなるが、岩質及び小さい塊は粘土化が進む。そのため、部分的に岩石組織が不明瞭となる。硬造は不明瞭。下位との境界も不明瞭。
9						赤褐					100	16	27	φ 86mm JTB-ツグA			著しく割れ目の発達した黒色頁岩からなり、下部において著しく風化を被っている。凝灰岩質を伴った。層理は15"/度程度の境界は明瞭(10")。10.50~11.70mm間割れ目により風化が進む。粘土状を伴った。10.70~10.77mm, 10.89~10.94mm間風化により風化した凝灰岩質。そのうち10.78~10.79mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。11.01~11.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 20")。11.12~11.14mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 20")。短片状。11.30~11.50mm間高角度割れ目を中心に割れ目発達。
10	10.24	63.11	2.85	火山礫 凝灰岩		赤褐					100	16	55	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~10mm流紋岩、安山岩の準角〜角礫からなる火山礫凝灰岩。全体に風化を被っており、一部の割れ目は劣化しており、土砂状を呈する。下位との境界は岩相が事象しているため不明瞭。11.90~12.00mm間高角度割れ目発達。黒色酸化流紋岩。
11	11.24	58.01	1.89	黒色頁岩		黒灰					100	12	22	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~4mm流紋岩、安山岩礫が散在。中〜粗粒の凝灰岩。全体に風化を被り褐色を呈する。層理などの構造は不明瞭。下位との境界は、岩相が遷移しているため不明瞭。12.89~13.10mm間褐色凝灰岩に風化粘土(厚さ11cm, 20")。
12	11.28	62.61	6.20	凝灰岩		赤褐					100	12	22	φ 86mm JTB-ツグA			
13	12.65	61.69	8.98	火山礫 凝灰岩		暗灰					100	19	84	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~4mm流紋岩、安山岩礫が散在。中〜粗粒の凝灰岩。全体に風化を被り褐色を呈する。層理などの構造は不明瞭。下位との境界は、岩相が遷移しているため不明瞭。12.89~13.10mm間褐色凝灰岩に風化粘土(厚さ11cm, 20")。
14	14.40	58.91	3.72	凝灰岩		暗灰					100	22	52	φ 86mm JTB-ツグA			細〜粗粒凝灰岩からなる凝灰岩優勢層。上部、下部にはφ2~10mm流紋岩、安山岩の準角礫が散在。下部は層状に含まれる。全体に風化を被り、褐色を呈す。下位との境界はやや不明瞭。14.47~14.38mm間割れ目に沿って土砂状を示す。15.05~15.25mm間褐色凝灰岩に風化粘土(厚さ21cm, 0")。上部より10mm間にφ1~3mmの頁岩が混入。15.31~15.33mm間短片状17、15.56mm付近40"の割れ目発達。16.53~16.68mm間同心円状の縮構造を伴う。
15						暗灰					100	23	31	φ 86mm JTB-ツグA			
16	16.25	57.78	2.19	黒色頁岩 凝灰岩 互層		暗灰					100	8	0	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~10mm流紋岩、安山岩の準角〜角礫からなる。基下部では頁岩層を伴う。1~10"の層理で準角礫が認められる。下位との境界は不明瞭。16.70~17.10mm間高角度割れ目発達。17.70mm以東頁岩を主体とし、凝灰岩、安山岩等の準角〜角礫(φ2~10mm)を含む。17.70~17.85mm間高角度割れ目。割れ目に短片状を伴う。
17						暗灰					100	27	39	φ 86mm JTB-ツグA			下部は粗粒を伴った黒色頁岩からなり、上部は細粒の凝灰岩を伴った。凝灰岩は風化し、褐色を呈す。層理は赤々10"程度で認められる。割れ目は低角度及び高角度の2系統が発達するが、高角度割れ目に対し、赤褐色酸化物が付着。下位との境界は明瞭(15")。18.00~18.10mm, 18.15~18.19mm間短片状。18.03~18.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.15~18.19mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.21~18.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.55~18.59mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.60~18.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.65~18.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.70~18.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.75~18.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.80~18.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.85~18.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.90~18.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。18.95~19.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.00~19.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.05~19.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.10~19.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.15~19.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.20~19.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.25~19.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.30~19.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.35~19.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.40~19.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.45~19.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.50~19.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.55~19.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.60~19.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.65~19.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.70~19.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.75~19.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.80~19.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.85~19.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.90~19.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。19.95~20.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.00~20.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.05~20.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.10~20.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.15~20.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.20~20.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.25~20.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.30~20.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.35~20.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.40~20.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.45~20.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.50~20.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.55~20.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.60~20.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.65~20.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.70~20.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.75~20.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.80~20.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.85~20.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.90~20.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。20.95~21.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.00~21.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.05~21.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.10~21.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.15~21.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.20~21.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.25~21.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.30~21.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.35~21.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.40~21.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.45~21.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.50~21.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.55~21.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.60~21.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.65~21.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.70~21.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.75~21.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.80~21.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.85~21.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.90~21.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。21.95~22.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.00~22.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.05~22.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.10~22.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.15~22.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.20~22.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.25~22.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.30~22.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.35~22.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.40~22.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.45~22.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.50~22.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.55~22.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.60~22.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.65~22.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.70~22.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.75~22.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.80~22.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.85~22.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.90~22.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。22.95~23.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.00~23.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.05~23.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.10~23.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.15~23.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.20~23.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.25~23.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.30~23.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.35~23.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.40~23.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.45~23.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.50~23.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.55~23.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.60~23.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.65~23.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.70~23.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.75~23.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.80~23.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.85~23.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.90~23.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。23.95~24.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.00~24.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.05~24.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.10~24.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.15~24.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.20~24.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.25~24.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.30~24.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.35~24.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.40~24.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.45~24.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.50~24.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.55~24.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.60~24.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.65~24.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.70~24.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.75~24.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.80~24.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.85~24.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.90~24.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。24.95~25.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.00~25.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.05~25.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.10~25.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.15~25.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.20~25.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.25~25.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.30~25.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.35~25.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.40~25.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.45~25.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.50~25.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.55~25.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.60~25.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.65~25.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.70~25.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.75~25.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.80~25.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.85~25.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.90~25.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。25.95~26.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.00~26.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.05~26.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.10~26.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.15~26.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.20~26.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.25~26.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.30~26.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.35~26.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.40~26.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.45~26.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.50~26.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.55~26.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.60~26.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.65~26.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.70~26.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.75~26.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.80~26.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.85~26.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.90~26.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。26.95~27.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.00~27.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.05~27.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.10~27.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.15~27.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.20~27.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.25~27.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.30~27.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.35~27.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.40~27.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.45~27.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.50~27.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.55~27.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.60~27.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.65~27.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.70~27.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.75~27.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.80~27.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.85~27.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.90~27.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。27.95~28.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.00~28.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.05~28.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.10~28.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.15~28.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.20~28.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.25~28.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.30~28.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.35~28.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.40~28.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.45~28.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.50~28.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.55~28.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.60~28.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.65~28.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.70~28.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.75~28.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.80~28.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.85~28.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.90~28.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。28.95~29.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.00~29.05mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.05~29.10mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.10~29.15mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.15~29.20mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.20~29.25mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.25~29.30mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.30~29.35mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.35~29.40mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.40~29.45mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.45~29.50mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.50~29.55mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.55~29.60mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.60~29.65mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.65~29.70mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.70~29.75mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.75~29.80mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.80~29.85mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.85~29.90mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.90~29.95mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。29.95~30.00mm間褐色凝灰岩(厚さ15mm, 0")。
18	17.35	64.45	1.84	凝灰岩		褐					100	15	28	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~10mm凝灰岩白色安山岩及び風化を被り褐色を帯びる輝灰色燧石からなる。燧石の産より、29.00m以深ではより粗粒となる。22.00m以深は緑色を呈する火山礫凝灰岩で、割れ目付近は土砂化する。層理などの構造は不明瞭。下位との境界は明瞭。
19						暗灰					100	10	10	φ 86mm JTB-ツグA			
20						暗灰					100	5	0	φ 86mm JTB-ツグA			
21						暗灰					100	14	14	φ 86mm JTB-ツグA			
22	21.24	52.24	3.29	黒色頁岩		黒灰					100	5	0	φ 86mm JTB-ツグA			φ2~10mm凝灰岩白色安山岩及び風化を被り褐色を帯びる輝灰色燧石からなる。燧石の産より、29.00m以深ではより粗粒となる。22.00m以深は緑色を呈する火山礫凝灰岩で、割れ目付近は土砂化する。層理などの構造は不明瞭。下位との境界は明瞭。
23						暗灰					100	27	79	φ 86mm JTB-ツグA			
24						暗灰					100	30	7				

孔口標高		I.P. +74.37 m		掘進長		125.00 m		調査期間		1998年 2月 10日 ~ 1998年 3月 5日		試錐機械		D-1B		
角度		方向		孔内水位		I.P. +71.98 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・二軸圧縮試験・RTR-ATV		記		事		
標尺 (m)	深 度 (m)	標 高 T.P. (m)	厚 度 (m)	柱 状 図	地 質 種 別	色 調	岩 級 区 分	コア形状 十型短柱長 砂片柱長 柱状試体形状	割 れ 目 状 態	風 化 程 度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	孔 径 ピット コア	孔内試験 項目 深度 (m)	記 事
30																
1					火山礫凝灰岩		C _M			9	100	60	85			
2	21.83	77.44	1.95		凝灰岩		C _{II}			2	100	37	82			割れ目によって風化が著しく、全体にやや褐色を呈した黒色頁岩からなる。33.06m以深には20mm程度の流紋岩、安山岩の角礫を所々に少量含む。ほとんど浸透層を挟まないため、割れ目の精度は不明である。下位の地層は凝灰岩(概ね20°)で明らかである。31.95~32.00m、32.34~32.50m間割れ目密集。
3	21.35	77.04	1.92		普通黒灰岩		C _L			2	100	46	84			
4					凝灰岩		C _M			3	100	35	68			φ2~30mm(最大50mm)流紋岩、安山岩の角礫~角礫及び扁平角石を含む火山礫凝灰岩。33.50m以浅は基質が泥質で、以深より凝灰質となる。全体に中~強度の風化を被っており、特に割れ目周辺では褐色化が強い。下位との境界は明瞭(25°)。33.59~34.05m間、34.64m以深扁平角石を多く含む。
5	25.03	75.25	1.17		凝灰岩		C _M			3	100	67	93			泥分を含む凝灰岩を基質とし、φ2~10mm流紋岩、安山岩及び角石の角礫~角礫を含む。下位との境界は明瞭(50°)。35.60m以深凝灰岩~層状の黒色頁岩存在。35.85m付近割れ目発達し、風化により短片状を呈する。
6	23.29	76.08	1.54		凝灰岩		C _L			2	100	60	88			割れ目が浸透層程度の風化を被っている層状の黒色頁岩からなる。
7	21.71	77.63	1.45		凝灰岩		C _M			2	100	26	62			泥分を含む凝灰岩を基質とし、φ2~15mm流紋岩、安山岩の角礫~角礫を多く含む。下位との境界は岩相が漸移しており不明瞭。37.10~37.40m、38.00~38.63m間凝灰岩~層状の黒色頁岩を所々に含む。そのうち38.43~38.58m間褐色~赤褐色の凝灰質頁岩が挟在。凝灰岩層を伴う(35°)。
8	18.95	80.29	2.34		凝灰岩		C _M			3	100	41	74			
9					凝灰岩		C _M			3	100	48	100			
10					凝灰岩		C _M			2	100	83	100			
11					凝灰岩		C _M			2	100	86	86			
12					凝灰岩		C _M			2	100	83	100			
13	41.30	31.07	4.32		凝灰岩		C _{II}			1	100	44	89			φ2~50mm(最大7長15cm)の安山岩、流紋岩、玄武岩の角礫~角礫を含む。基質は凝灰質であるが、下部は次第に泥分を含み、44.61m付近より泥質となる。ただし、隙を含む黒色頁岩部はそれぞれ層状である可能性がある。全体に所々褐色風化を被り、44.63~44.60m間で顕著に認められる。46.08m付近割れ目密集短片状を示す。
14					凝灰岩		C _{II}			1	100	44	100			
15					凝灰岩		C _{II}			2	100	75	95			
16					凝灰岩		C _{II}			1	100	38	87			
17	46.95	27.33	3.23		凝灰岩		C _{II}			1	100	67	81			基質は凝灰分主体であるが、全体に泥分を含む。凝灰岩φ2~50mmの安山岩、流紋岩、玄武岩の角礫~角礫からなる。下位との境界は明瞭(概ね10°)。部分的に風化による褐色化が見られる。比較的新鮮な箇所では、割れ目はほとんど見られない。風化部では高角度割れ目が発達する。
18	48.25	26.13	1.89		凝灰岩		C _{II}			2	100	40	100			厚さ15cm程度の凝灰岩を中心に、厚さ2~10mmの頁岩層を挟み、凝灰岩を含む。割れ目は、下位との境界は明瞭(10°)。48.23~48.30m間に凝灰岩層を伴う。一部は2°傾斜を示す。48.35~49.12m間凝灰岩。上部、中部に部部割れ目発達。凝灰岩部に低角度割れ目(1~2°)発達。49.16~49.59m間凝灰岩層。
19	49.59	24.18	1.36		凝灰岩		C _M			1	100	33	58			凝灰岩凝灰岩で、上部凝灰岩が認められる。下位との境界は漸移的。
20	49.90	24.47	0.91		凝灰岩		C _M			1	100	45	79			φ1~10mmの流紋岩の角礫~不定形角礫を含む。全体に灰白色斑状の組織が認められる。下位との境界は漸移的。50.30m以深割れ目によって褐色風化、酸化汚染を被る。
21	51.70	23.27	1.20		凝灰岩		C _{II}			1	100	61	100			中~粗粒凝灰岩よりなり、φ1~5mmの流紋岩粒子を少量含む。
22	51.49	23.94	0.30		凝灰岩		C _{II}			1	100	61	100			凝灰質凝灰岩層を伴うが、全体に泥質が発達しない層状の黒色頁岩からなる。下位との境界に岩相が漸移しているため不明瞭。51.43~51.70m間60~70°割れ目発達。
23	55.29	20.17	0.80		凝灰岩		C _{II}			1	100	34	77			基質が発達し、凝灰岩であるが上部凝灰岩の風化に伴う凝灰岩からなる。割れ目は、下位との境界は明瞭(10°)。
24	55.85	22.31	0.65		凝灰岩		C _{II}			1	100	63	91			55.00~55.22m間では厚さ2cm程度の凝灰岩を伴う凝灰岩。
25	57.27	21.10	0.97		凝灰岩		C _{II}			1	100	54	99			厚さ10~15cm程度の凝灰岩を伴う。φ2~10mmの流紋岩粒子が散在する。下位との境界は明瞭(10°)。54.27~55.34m間凝灰岩層。53.48~54.51m間凝灰岩層。3.1.80m付近高角度割れ目発達。
26	54.13	20.21	0.95		凝灰岩		C _{II}			1	100	40	100			凝灰質頁岩の層を伴う不規則に散在する層状の黒色頁岩。
27	54.54	19.85	0.37		凝灰岩		C _{II}			1	100	40	100			φ1~10mmの流紋岩の角礫~不定形角礫を含む。全体に灰白色斑状の組織が認められる。下位との境界は漸移的。50.30m以深割れ目によって褐色風化、酸化汚染を被る。
28	54.83	19.57	0.30		凝灰岩		C _{II}			1	100	40	100			中~粗粒凝灰岩よりなり、下部にφ2~10mmの流紋岩粒子と凝灰岩層を伴う。上部は凝灰岩で、発達する。54.30~54.95m間流紋岩層により取り込まれた凝灰岩層。55.29m以深扁平角石。56.41m以深流紋岩層が少量含まれる。56.12m青灰色平伏状短片状、軟弱である。厚さ4mm、傾斜10°、方角を伴う。
29	53.14	18.23	1.29		凝灰岩		C _{II}			1	100	40	100			凝灰岩を含む黒色頁岩。発達(10°)。下位との境界は岩相が漸移しているため不明瞭。
30	51.07	15.39	0.90		凝灰岩		C _{II}			1	100	47	100			凝灰質頁岩を主体とし、黒色頁岩、凝灰岩を伴う。下位との境界は不明瞭。割れ目は、下位との境界は明瞭(10°)。57.24m、57.30m付近φ1~2mmの流紋岩。層状に発達。57.33~57.38m間凝灰岩の発達する粗粒凝灰岩。そのうち57.33~57.38m間凝灰岩化した凝灰岩。割れ目φ10の組織が見られる。57.55~58.10m間φ1~2mm流紋岩及び層状の凝灰岩。58.10m以下には凝灰岩が認められる。下位では不明瞭。58.15~58.37m間黒色頁岩層。58.81m付近20°角を伴う割れ目発達。褐色化を被る。58.88m、58.89m付近の凝灰岩を伴う。59.03~59.05m間凝灰岩層発達する凝灰岩層に挟在。
31	53.05	15.22	1.38		凝灰岩		C _{II}			1	100	23	90			凝灰質頁岩層を伴う黒色頁岩。下位との境界は明瞭(10°)。
32	53.01	15.36	0.58		凝灰岩		C _{II}			1	100	43	84			φ1.7m以深泥分を含む。53.05~53.05m間灰色平伏状粘土(厚さ16mm、φ1°)。

孔口標高		I.P. +74.37 m		掘進長		125.00 m		調査期間		1998年 2月 10日 ~ 1998年 3月 6日		試錐機械		D=18			
角度		方向		孔内水位		I.P. +71.98 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・三軸圧縮試験・J 74-RV		記		事			
根	深	標	層	柱	地	色	岩	コ	割	風	コ	最	R	孔	孔	記	事
尺	度	高	厚	状	質	調	紋	ア	れ	化	ア	大	Q	径	内		
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)	図	種	別	区	形状	目	程	探	ア	D	径	試	記	事
							分	寸	状	度	取	長	(%)	径	験		
								状	態		率	(cm)	(%)	径	深	記	事
								状			(%)			度	記		
																記	事
0	06.00	74.37	0.00														
1	06.20	74.47	1.01		黒色頁岩	黒灰	C _H		α	1	100	35	69				黒色頁岩の層理を伴って存在する黒色頁岩からなる。層理は3°。下位との境界は明瞭(15°)。62.19~62.94m間φ1~4mm石灰質粒子及びφ1~3mm酸化鉄粒子を含む凝灰質頁岩。69.86~69.92m付近に酸化鉄粒子を含む。61.15~61.23m間φ1状凝灰質頁岩存在。60.81~61.10m間褐色酸化物を伴う高角度割れ目発達。上記以外の割れ目は3~10°。
2	07.10	74.77	1.40		凝灰質頁岩	灰					100	29	92				61.70~61.74m間部分を含む凝灰質頁岩。61.95~62.07m間灰白色石灰質粒子を含む凝灰質頁岩。層理は0°で発達。下位との境界は明瞭。
3	07.07				黒灰						100	26	95				62.53~62.80m間緑灰色細粒凝灰質頁岩を挟む。62.95m以深安山岩質入射の変質による淡色化がみられる。層理は10°。下位との境界は明瞭(10°)。62.30~62.98m間53°を中心にした傾斜に発達する方解石。63.73~63.95m間風化に伴う褐色酸化物が発達。割れ目は低角度主体。
4	08.08	75.30	1.98		黒色頁岩	帯灰黒灰	C _M				100	13	23				φ1~2mm長石及びφ2~4mm黒色鉱物の塊状組織からなる安山岩。割れ目によって風化による褐色酸化物発達する。急冷線は風化により不明瞭。64.00~64.55m間高角度割れ目発達。63.98~64.80m間φ2~6mm空隙散在。境界付近はほとんど孔径が増大する。また、一部の空隙には方解石が充填している。64.62m, 65.00m, 65.47m, 67.52m, 67.60m, 68.30m付近50~70°割れ目発達。69.45~69.82m間割れ目は貫入時の急冷に伴う空隙散在。一部の孔には方解石充填。下位との境界は明瞭(23°)。
5					褐灰						100	22	35				
6											100	35	88				
7							C _H			1	100	100	100				
8											100	53	85				
9					緑灰						100	62	100				
10					褐灰					B	3	24.00	100	45	70		
1	71.34	73.50	1.90		安山岩	緑灰	C _H				1	77.50	100	67	92		熱水変質を被り白色化し、葉理が発達した凝灰質頁岩。葉理は25°で発達。下位との境界は不明瞭。71.34~71.37m間安山岩の貫入による柱状化がみられる。71.37~72.90m間70~80°の高角度割れ目発達。葉理に沿った割れ目も伴い、部分的に寄集し所々で薄片状方解石が認められる。割れ目には褐色酸化鉄物が付着する。
2	72.78	73.28	1.43		凝灰質頁岩		C _L				2	72.80	100	35	35		熱水変質を被り白色化している。岩石組織が部分的に不明瞭であるが、細中粒凝灰質からなる。部分的に層理発達(35°)。下位との境界は明瞭(30°)。74.33~74.60m間φ2~6mm褐色円状空隙発達。成因不明。同心円状の白色の輪を伴う。割れ目の傾斜は、中~高角度主体で、特に73.63m以後で発達。割れ目に褐色酸化鉄物が付着する。
3											2		100	29	75		
4					凝灰岩	帯褐灰白	C _L				1	74.00	100	25	70		葉理が少なく、すばりな安山岩。φ1~20mm間~楕円状方解石が散在する。上下面には厚さ10mm程度の急冷線を伴う。74.80~75.27m間高角度割れ目発達。風化による褐色酸化物が発達。74.80~75.30m間φ2~4mm空隙散在。一部の孔には方解石充填。75.85~76.20m間80~85°方解石葉理発達。そのうち、75.85~75.82m間ではφ1~2mm酸化鉄物が散在する。77.50m付近酸化鉄物を伴う方解石葉理発達(40°)。77.49~77.65m間急冷による淡色化がみられる。
5	74.88	75.48	1.01		凝灰岩	帯褐灰白	C _L				1	75.20	100	25	70		葉理が少なく、すばりな安山岩。φ1~20mm間~楕円状方解石が散在する。上下面には厚さ10mm程度の急冷線を伴う。74.80~75.27m間高角度割れ目発達。風化による褐色酸化物が発達。74.80~75.30m間φ2~4mm空隙散在。一部の孔には方解石充填。75.85~76.20m間80~85°方解石葉理発達。そのうち、75.85~75.82m間ではφ1~2mm酸化鉄物が散在する。77.50m付近酸化鉄物を伴う方解石葉理発達(40°)。77.49~77.65m間急冷による淡色化がみられる。
6					褐灰						1	75.20	100	45	86		
7											1		100	100	100		
8	77.85	78.27	1.18		安山岩	淡緑灰					1	77.80	100	65	87		凝灰質頁岩及び凝灰質頁岩を挟む黒色頁岩。層理は3°。下位との境界は明瞭(15°)。77.74~77.85m間φ1~2mm酸化鉄物散在。77.95~78.00m間厚さ1mm程度の方解石葉理。下位との境界は明瞭(15°)。78.14~78.25m間φ1状凝灰質頁岩及び凝灰質頁岩存在。
9	78.09	78.72	0.62		凝灰質頁岩	灰					1	78.00	100	36	83		葉理は0°で発達する凝灰質頁岩主体で、上部は凝灰質頁岩を混入する。また、下部は泥分を含み、最下部にドレイヤ〜層理が貫入する。
10	79.71	80.35	0.63		黒色頁岩	黒灰					1	79.70	100	45	91		部分的に凝灰質頁岩を挟む黒色頁岩。層理は16°。下位との境界は明瞭(15°)。79.50m付近φ5mm酸化鉄物散在。
1											1		100	58	87		φ1~4mm長石及びφ2~4mm凝灰質の塊状組織からなるドレイヤ。上面側で厚さ10mmの急冷線が発達するが、下面側には見られない。下位との境界は著しい高曲が見られる。79.73~79.90m間斑晶がほとんどみられず、低角度方解石葉理発達。また、φ1~2mm空隙が散在する。79.90~80.70m間φ1~3mmの斑晶。80.70~81.90m間長石と輝石がほぼ同量。81.90m以降では輝石葉理。そのため、全体に褐色を呈する。80.10~80.13m, 82.60~82.62m間方解石。82.30m付近褐色色状在物があり、共に層状を呈し、概ね割れ目には急冷線が発達。82.55~82.65m間φ2~4mm酸化鉄物散在。
2	80.32	80.95	0.10		凝灰岩	暗緑灰	C _H				1	80.30	100	47	86		
3					ドレイヤ	暗緑灰					1		100	30	91		
4	80.71	81.40	0.69		黒色頁岩	黒灰					1	80.70	100	32	91		厚さ10~15mm間凝灰質頁岩を挟む黒色頁岩。層理は2°。下位との境界は明瞭(15°)。82.32~82.90m間ドレイヤの貫入による変質により風化。83.05~83.09m間φ1~4mm方解石(40~45°)発達。83.50m付近φ1~2mm酸化鉄物散在(15°)。83.34~83.40m間φ1状凝灰質頁岩。泥分を含む凝灰質頁岩。層理は0°。φ1~20mm間~産産の塊状岩散在。下位との境界は著しく不明瞭。
5	81.41	82.14	0.64		凝灰質頁岩	暗灰					1	81.40	100	47	80		多量の凝灰質頁岩を挟む中~粗粒凝灰岩。層理は不明瞭であるが、輝石より5~10°の傾斜がみられる。下位との境界は高曲が見られるが概ね20~25°。84.41~84.70m間凝灰質頁岩存在。86.10m以深急冷による淡色化がみられる。86.55~86.70m間扁平輝石結晶。88.55~88.95m間泥分を含む凝灰質からなり、φ1~6mm流紋岩粒子を伴う。
6					暗緑灰						1		100	100	100		
7											1		100	71	100		
8											1		100	100	100		
9	84.17	84.90	1.73		凝灰岩	淡緑灰					1	84.10	100	62	97		挟層が少なく、89.65m以深厚さ2~6mm水白頁岩凝灰質頁岩を挟む黒色頁岩。層理は10°。下位との境界は明瞭(10°)。89.38m付近φ10mm石灰質粒子散在。割れ目の傾斜は低角度。層理面に沿った割れ目が主体。特に89.65m以深では凝灰質頁岩に沿って発達する。
10	87.71	88.38	0.67		黒色頁岩	黒灰					1	87.70	100	34	85		

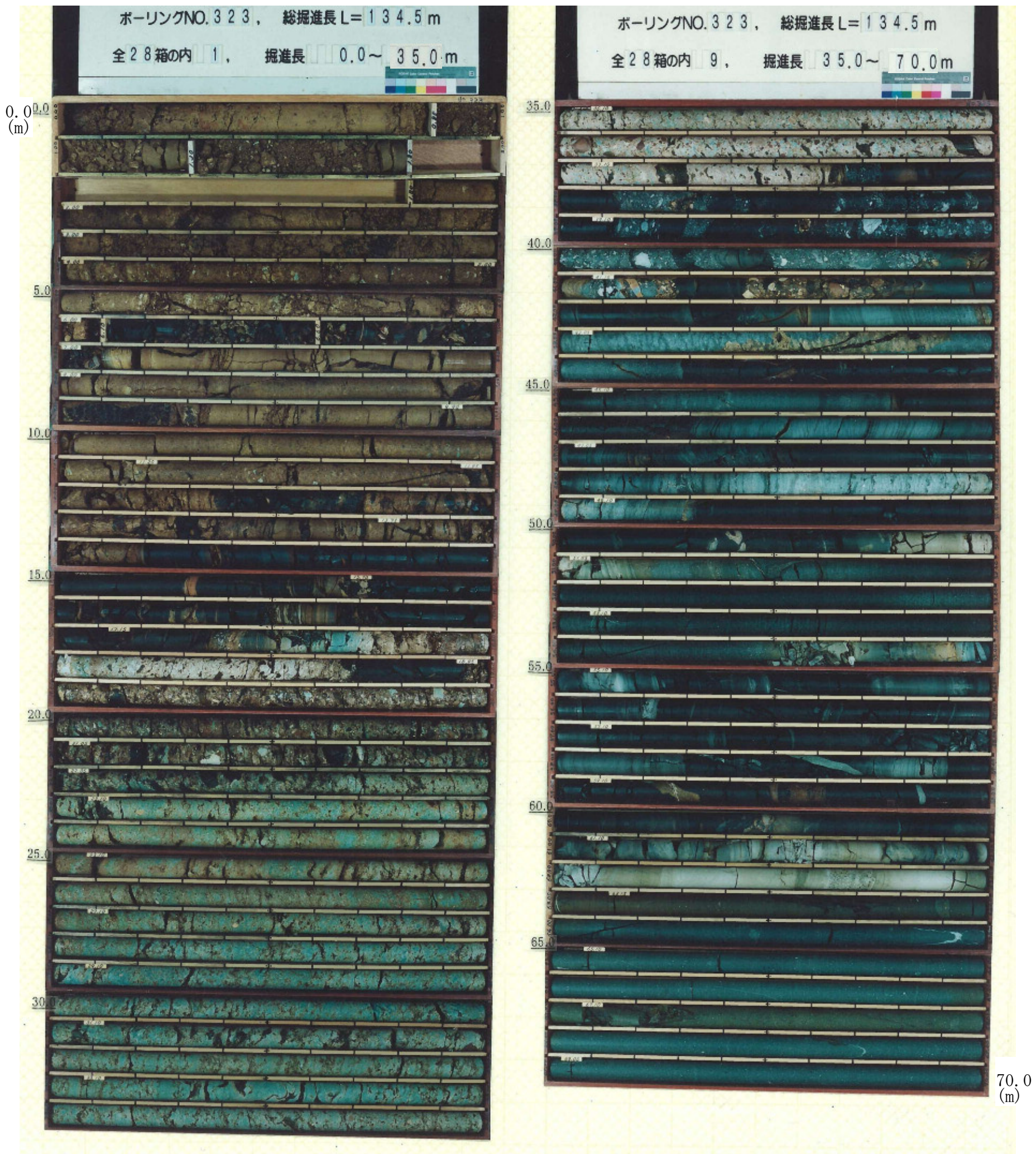
No. 322 孔 (4/5)

孔口標高		T.P. +74.37 m		掘進長		125.00 m		調査期間		1998年 2月 10日 ~ 1998年 3月 6日		試験機械		D-1B					
角度		方向		孔内水位		T.P. +71.98 m		孔内試験項目		孔内水平破砕試験・岩石試験・三軸圧縮試験・474-KV									
標尺	深度	層高	層厚	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径 (mm)	孔内試験項目	深度 (m)	記	事	
90																			
	0.77	1.40	1.77		凝灰質頁岩	灰					100	66	100						
					凝灰質頁岩	灰					100	39	73						
	0.35	1.18	1.79		黒色頁岩	黒灰					100	70	100						
	0.80	1.35	1.83		凝灰質頁岩	灰					100	48	99						
	0.45	1.08	1.53		凝灰岩	黒灰					100	60	60						
	0.24	0.76	1.22		凝灰質頁岩	増灰					100	31	72						
	0.40	1.02	1.47		黒色頁岩性凝灰岩	黒灰					100	49	100						
	0.11	0.71	1.17		凝灰質頁岩	灰	C II				100	66	96						
	0.29	0.92	1.33		黒色頁岩	黒灰					100	40	92						
						暗灰					100	47	87						
						灰					100	48	97						
						黒灰凝灰岩					100	60	96						
	0.01	0.10	0.28		凝灰質頁岩						100	32	84						
	0.07	0.67	0.67		凝灰岩	暗灰					100	36	89						
	0.05	0.28	0.61		黒色頁岩	黒灰					100	29	83						
	0.13	0.31	0.51		凝灰質頁岩	暗灰					100	25	76						
	0.22	0.35	0.82		凝灰質頁岩	暗灰					100	25	76						
	0.33	0.40	0.81		凝灰質頁岩	灰					100	23	74						
	0.01	0.15	0.82		凝灰質頁岩	灰	C M				100	23	74						
	0.07	0.25	0.82		凝灰質頁岩	灰					100	22	84						
	0.01	0.30	0.82		凝灰質頁岩	灰	C H				100	22	68						
	0.01	0.31	0.83		凝灰質頁岩	灰	C L				100	26	36						
	0.01	0.32	0.83		凝灰質頁岩	灰					100	32	92						
	0.01	0.33	0.84		凝灰質頁岩	灰	C H				100	60	99						
	0.01	0.34	0.85		凝灰質頁岩	灰					100	24	75						
	0.01	0.35	0.86		凝灰質頁岩	灰					100	24	75						
	0.01	0.36	0.87		凝灰質頁岩	暗灰					100	52	85						
	0.01	0.37	0.88		凝灰質頁岩	灰	C H				100	13	26						
	0.01	0.38	0.89		凝灰質頁岩	灰	C H				100	31	41						
	0.01	0.39	0.90		凝灰質頁岩	灰	C H				100	41	69						
	0.01	0.40	0.91		凝灰質頁岩	灰	C H				100	41	69						
	0.01	0.41	0.92		凝灰質頁岩	灰	C H				100	38	75						
	0.01	0.42	0.93		凝灰質頁岩	灰	C H				100	22	67						
	0.01	0.43	0.94		凝灰質頁岩	灰	C L				100	17	32						

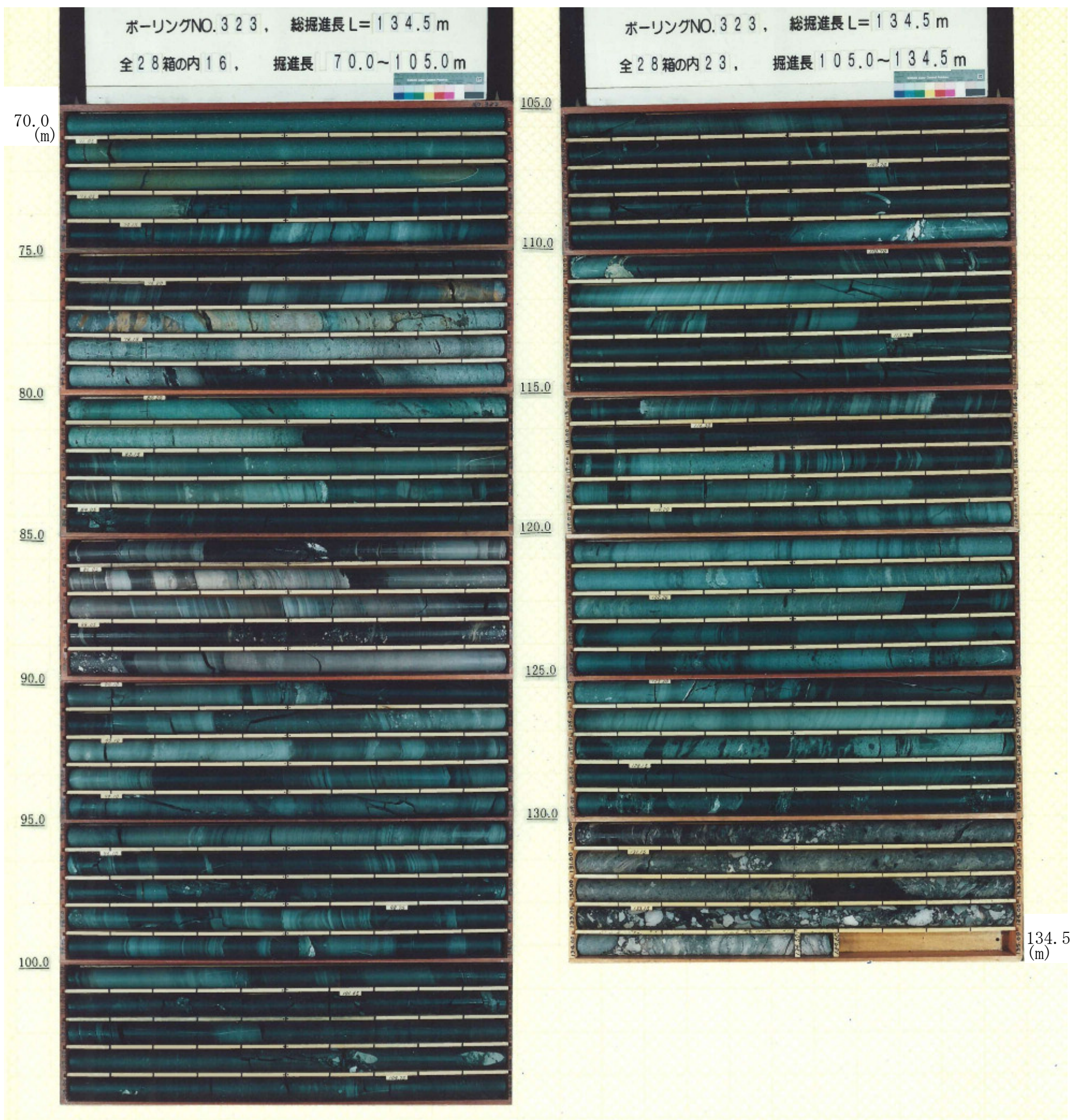
No. 322 孔 (5/5)

孔口標高		T.P. +74.37 m		掘進長		125.00 m		調査期間		1998年 2月 10日 ~ 1998年 3月 6日		試錐機械		D-1B			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +71.98 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・二軸圧縮試験・ σ - τ 試験			
標尺	深度	標高	層厚	柱状図	地質種別	色調	岩紋区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径	孔内試験項目	記	事
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)					土割れ目柱状図						コア径	項目		
								土割れ目柱状図						コア径	項目		
120	120.00	74.37	0.00		凝灰質頁岩	灰	C ₁	120.00			100	41	64				
1	120.00	74.37	0.00		凝灰質頁岩	灰	C _M	120.00			100	22	74				
2	120.00	74.37	0.00		凝灰質頁岩	灰	C _H	120.00			100	63	91				
3	120.00	74.37	0.00		凝灰質頁岩	灰	C ₁	120.00			100	44	80				
4	124.47	80.16	5.69		黒色頁岩	黒板	C ₁	124.47			100	23	37				
5	124.47	80.16	5.69		凝灰質頁岩	灰	C ₁	124.47			100	23	37				
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34																	
35																	
36																	
37																	
38																	
39																	
40																	
41																	
42																	
43																	
44																	
45																	
46																	
47																	
48																	
49																	
50																	
51																	
52																	
53																	
54																	
55																	
56																	
57																	
58																	
59																	
60																	
61																	
62																	
63																	
64																	
65																	
66																	
67																	
68																	
69																	
70																	
71																	
72																	
73																	
74																	
75																	
76																	
77																	
78																	
79																	
80																	
81																	
82																	
83																	
84																	
85																	
86																	
87																	
88																	
89																	
90																	
91																	
92																	
93																	
94																	
95																	
96																	
97																	
98																	
99																	
100																	

No. 323 孔(1/2)



No. 323 孔(2/2)



No. 323 孔 (1/5)

孔口標高		T.P. +83.61 m		掘進長		134.50 m		調査期間		1997年 12月 11日 ~ 1998年 1月 15日		試錐機械		D2-G					
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +81.70 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・二軸圧縮試験・478 3TV					
標尺	深	標高	層厚	柱状	地質	色調	岩級	コア形状	割れ目	風化	コア採取率	最大コア長	RQD	孔径	孔内試験	記	事		
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)	図	種別		区分	土質と柱状 砂状 塊状 状状状状状状	目状 柱状 状状状状状状	程度	(%)	(cm)	(%)	φ	項目 深度(m)				
0	0.00	83.61	0.00		粘性土													基岩層を掘入する表土。風化により土砂状を呈するが、岩石組織を残す。上部ほど風化が強く、下部に向かって粘性土状→砂質土状→硬質土状と漸移する。部分的に頁岩を挟在し、3.72m付近では頁岩の硬質層存在。下位との境界は土砂状コアで不明瞭。	
1					頁岩		D				95	0	0	φ 80mm 371-7	孔内水平載荷試験 371-7				
2											95	0	0						
3											95	0	0						
4											95	0	0	φ 65mm 371-7					
5											95	0	0						
6	6.07	77.54	5.77		火山礫凝灰岩	灰褐色					100	0	0					割れ目が発達し、割れ目によって風化が進み、粗片状コア主体。岩芯は硬い。全体に凝灰分を少量含む。部分的に凝灰岩の薄層状を挟在。下位との境界は粗粒層状を示し不明瞭。	
7	7.05	76.53	1.01		黒色頁岩	黒褐色					90	0	0					7.52m, 9.33m付近及び最下部を基底とする厚層に、不明瞭ながらそれぞれ風化層理が認められる中～粗粒凝灰岩からなる。5~10°の葉理が発達。粗粒部にはφ2~3mmの流紋岩、凝灰岩、頁岩の亜角~亜円錐、偏平塊を多く含む。φ5~10mmの流紋岩塊が点在。全体に岩芯まで風化が進み、やや軟質な短柱~柱状コアを主体とする。下位との境界はやや凹凸を有し、10°で明瞭。	
8											100	29	46					下部50mmは頁岩を相互層状(15°)に挟在。全体に葉理(10°)の粗粒層が卓越するが、7.22~7.85m, 8.17~8.62m, 8.90~9.33m, 11.01~11.15m, 11.50~11.98m間には酸化を伴う70~90°の割れ目が発達する。7.38m, 9.50m, 12.22m付近軟質で細粒化進む。	
9											100	27	35						
10											100	31	51					全体にやや凝灰質で、部分的に凝灰分を多く含む。やや風化が進み、不規則な割れ目が発達するが硬質。下位との境界は粗粒状コアで不明瞭。	
11	11.30	71.25	0.25		凝灰岩	灰褐色					100	0	0					φ7~10mmの流紋岩、凝灰岩、頁岩の亜角~亜円錐を多く含む。φ5~50mmの頁岩の扁平~不定形塊が挟在。全体に岩芯まで風化が進みやや軟質。下位との境界は漸移し不明瞭。	
12	12.70	70.21	0.44		凝灰岩	灰褐色					100	0	0					酸化層理。葉理(10°)発達する中～中粒凝灰岩。φ7~50mmの扁平~角錐層状。全体に岩芯まで風化し、やや軟質。14.72m付近細粒化進む。	
13	13.47	70.33	0.19		火山礫凝灰岩						100	0	0					全体に少量凝灰分を含み、部分的に凝灰岩、凝灰質頁岩を挟在(5°)。下位との境界は粗粒層状を呈し不明瞭。層理面に沿った割れ目、不規則な割れ目発達し、やや風化を受けるが、基質部は硬質。14.32~14.55m間暗青灰色の凝灰質頁岩。15.60~15.70m間灰褐色の凝灰岩。16.50~16.65m, 17.40~17.48m間凝灰岩との交互層。16.69~16.75m, 17.37~17.44m間φ2~3mmの流紋岩亜角錐を多く含む。14.35m, 14.55m, 15.31m, 16.02m付近厚さ2~4mmの赤褐色の強風化凝灰岩よりなり軟質。15.70m褐色風化粘土(厚さ10mm)。16.50m付近細粒化進む。	
14	14.20	69.41	0.31		凝灰岩	黒褐色					100	0	0					φ5~30mm(371系最大27cmの頁岩)の流紋岩、凝灰岩、頁岩の亜角~亜円錐、偏平塊を含む。全体に風化程度はやや強い。下位との境界は漸移する。	
15											95	12	12	φ 65mm 371-7	孔内水平載荷試験 371-7				
16											95	18	35						17.73m以降凝灰岩~凝灰質を呈する中～中粒凝灰岩。17.73~17.83m間風化著しく部分的に土砂~粘土化が認められる。全体に低角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに酸化、風化が進む。17.67m以降及び18.58~18.98m間の頁岩では70~90°の割れ目が発達する。
17											100	19	52						
18											100	23	50						
19											100	12	33						
20											100	29	73					φ7~10mmの流紋岩、凝灰岩、頁岩の亜角~亜円錐、偏平塊を含む。部分的に葉理(5°前後)が認められる。全体に明確な緑色を呈する。	
21	22.30	61.11	5.02		凝灰岩	暗黒褐色					100	48	73					23.65m付近にやや不明瞭な酸化層理が見られる。全体に風化し、程度は所々で異なり不均質である。34.69m以深φ2~30mmの赤褐色系安山岩質の亜角~亜円錐を多く含む。割れ目は低角度が主体で割れ目沿いは酸化、風化を被っている。下位との境界は不明瞭。	
22											100	30	37						
23											100	21	40						
24											100	68	99						
25											100	19	87						
26											100	30	100						
27											100	43	99						
28																			
29																			
30					火山礫凝灰岩	暗黒褐色					100	43	99						

孔口標高		T.P. +83.61 m		掘進長		134.50 m		調査期間		1997年 12月 11日 ~ 1998年 1月 15日		試錘機械		D2-G			
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. 181.70 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・三軸三縮試験・JIS A77			
標尺	深度	標高	層厚	柱状図	地質種別	色調	岩級区分	コア形状	割れ目状態	風化程度	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	孔径	孔内試験項目	記	事
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)					土超岩超柱状 砂片柱 柱状 状状状状状状						φ75-7	項目 深度(m)		
10																	
1							C _M				100	55	100				
2											100	35	87				
3											100	51	100				
4											100	23	83				
5											100	54	100				
6											100	79	100				
7											100	87	99				
8											100	36	60				37.35m付近20°の割れ目(斜)網状化が進み、灰褐色土砂状を呈する(最大厚10mm)。
9											100	21	51				0.20m未満の黒色頁岩層を多く含む。またφ7~30mm(最大40mm)の流紋岩、凝灰岩、礫石、安山岩質の角~他田、層平層を含む。最下部は層率が低い。基質は泥分主体。上位との境界は漸移的。割れ目は5~90°と不規則で、部分的に酸化を伴い、1.0.81m以深では酸化汚染が顕著。全体に虫食い状の穴が散在。
10											100	34	70				
1											100	45	86				
2											100	24	68				黒色頁岩~凝灰質頁岩の境界は漸移するが、この境界は15°で明瞭に接する。下位との境界は明瞭(5°)。割れ目は全体に不規則で、大部分が酸化を被る。 42.42m付近頁岩の雲状層(不固結時に混入)。
3											100	41	73				
4											100	53	83				
5											100	35	78				
6											100	35	97				
7											100	17	42				
8											100	29	29				
9											100	27	80				
10											100	31	31				
1											100	20	44				
2											100	38	71				
3											100	86	100				
4											100	38	86				
5											100	32	51				
6											100	29	62				
7											100	19	41				
8											100	19	75				
9											100	18	29				
10											100	21	45				

孔口標高		T.P. +83.61 m		掘進長		134.50 m		調査期間		1997年12月11日 ~ 1998年1月15日		試錐機械		D2-G				
角度		—		方向		—		孔内水位		T.P. +81.70 m		孔内試験項目		孔内水平載荷試験・岩石試験・三軸圧縮試験・スワッチ				
標尺	深	標	層	柱	地	色	岩	コア形状	割	蝕	コア	最大	R	孔径	孔内試験	記	事	
(m)	(m)	T.P. (m)	(m)	状	質	調	級	寸法	れ	化	採取	コア	Q	φ	項目			
				図	種	別	区	長	目	程	(%)	(cm)	D	177μm	深度(m)			
90	20.05	-3.57	0.30		凝灰質頁岩	灰					100	38	82		ボアホールT.V			
1	21.18	-1.42	0.2		黒色頁岩	黒灰					100	42	84					
3	22.20	-0.40	2.42		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	40	95					
4	23.58	-0.80	1.30		黒色頁岩	黒灰					100	41	100					
6	24.03	-1.25	2.53		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	27	100					
7					凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	54	85					
8	24.04	-1.43	2.40		黒色頁岩	黒灰					100	51	100					
9	24.49	-1.50	1.45		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	16	63					
10	24.18	-1.54	0.61		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	43	100					
100	24.74	-1.62	0.34		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	49	97					
	100.28	-1.64	0.30		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	18	50					
	100.45	-1.72	0.28		凝灰質頁岩	凝結凝灰					100	33	87					
1					黒灰						100	40	63					
2					黒灰						100	38	93					
3					黒灰						100	90	90					
4					黒灰						100	54	97					
5					黒灰						100	43	93					
6					黒灰						100	30	77					
7					黒灰						100	31	84					
8					黒灰						100	20	45					
9					黒灰						100	61	61					
10					黒灰						100	24	85					
11					黒灰						100	20	88					
12					黒灰						100	36	74					
13					黒灰						100	24	59					
14					黒灰						100	31	86					
15					黒灰						100	30	58					
16					黒灰						100	45	100					
17					黒灰						100	39	98					